



東海道名所圖會 六

ル 3
376
6



何佛尼蹟 極樂寺 每慶腰掛松 極樂寺切通
 鎌倉 鶴岡八幡宮 本宮 武内社
 神明宮 六朝洞 愛染堂 影向石末社
 茶師堂 柳源井 多宝塔 轉輪藏
 二王門 赤橋 神田 赤文祠
 段蔓 十二名居 後路峯
 法華堂 賴朝卿墓 寫津忠久墓
 鎌倉十橋 畠山重忠第 蛇谷
 覺園寺 大樂寺 藤倉十井
 大塔宮土牢 二階堂跡 獅子巖
 天台山 歌橋 文覺第
 釋迦堂谷 唐絲娘土牢 杉本親善
 淨妙寺 尊氏第 五大堂
 舟殿 龍王殿 開山塔 藤山 銅山
 外山額 梁牌額 淨智寺 明月院 圓覺寺
 舟殿 同額 選伴場 方丈 宿龍池 坐禪窟
 總門額 虎頭石 御山場 東慶寺 長壽寺
 妙光池 竹宝佛牙舍利 鐵井 松源寺地蔵
 常樂寺 本曾家 實朝塔 英勝寺
 窟不動 壽福寺 石佛尼塔 源氏山
 本堂 山門額 惣門額 矢拾地蔵 為相塔
 鐘樓 泉井 綱引地蔵 底脱井 十六井
 扇井 海藏寺 假粧阪 正宗宅 運慶宅
 巽荒神 人丸姫塚 尊氏第蹟 典禪寺
 裁許橋 佐々稻荷 隱里 縁洗水
 天狗堂 常胤宅 佐々目谷 塔辻

何佛尼蹟 極樂寺 每慶腰掛松 極樂寺切通
 鎌倉 鶴岡八幡宮 本宮 武内社
 神明宮 六朝洞 愛染堂 影向石末社
 茶師堂 柳源井 多宝塔 轉輪藏
 二王門 赤橋 神田 赤文祠
 段蔓 十二名居 後路峯
 法華堂 賴朝卿墓 寫津忠久墓
 鎌倉十橋 畠山重忠第 蛇谷
 覺園寺 大樂寺 藤倉十井
 大塔宮土牢 二階堂跡 獅子巖
 天台山 歌橋 文覺第
 釋迦堂谷 唐絲娘土牢 杉本親善
 淨妙寺 尊氏第 五大堂
 舟殿 龍王殿 開山塔 藤山 銅山
 外山額 梁牌額 淨智寺 明月院 圓覺寺
 舟殿 同額 選伴場 方丈 宿龍池 坐禪窟
 總門額 虎頭石 御山場 東慶寺 長壽寺
 妙光池 竹宝佛牙舍利 鐵井 松源寺地蔵
 常樂寺 本曾家 實朝塔 英勝寺
 窟不動 壽福寺 石佛尼塔 源氏山
 本堂 山門額 惣門額 矢拾地蔵 為相塔
 鐘樓 泉井 綱引地蔵 底脱井 十六井
 扇井 海藏寺 假粧阪 正宗宅 運慶宅
 巽荒神 人丸姫塚 尊氏第蹟 典禪寺
 裁許橋 佐々稻荷 隱里 縁洗水
 天狗堂 常胤宅 佐々目谷 塔辻



江湾海濱

山王宮

海晏寺
 芝大舟
 真籃觀音
 雜魚場
 増上寺
 築地本願寺

東海寺
 泉岳寺
 西應寺
 含海山
 飯倉神明
 日本橋

御殿山
 芝沖漢船
 道灌城趾
 長南寄
 畫肆

八幡山
 三田八幡
 熊谷城墟
 金杉
 愛宕



知澤



江之浦御天宮

六八四

鐘樓

竟永十四年の遠きなり

奉治鑄金龜山與願寺宇賀辨財天女
下宮鐘銘
大日本國東海道相模州江島郡
出之靈嶋敷福神陀居之巖窟焉
十代欽明天皇十三年歲自四月
判當于江野南海潮水之門雲霞
日夜大地六種震動天女顯現
左天降盤石從海舉砂磔電山
浪同及于今之三神是也抑此
鳥山耳陰陽之初也抑此神將
事之起生陰陽之初也抑此神
覺之尊大慈大悲之濟現德乎
之體與官與福之利益是矣因
詣此山越知對請恒臨慈覺念
弘法應滿知仰靈驗矣肆信心
行農家一知所靈驗矣肆信心
治鑄蒲牢一聲上徹梵天頂下
耳根利故遍用聲願圓明而施
總而天長地久御願滿別而施
天本願任誠於大悲誓約祈善
就而己維時寬永十四丁丑曆閏

天台傳燈三部都法大阿闍梨法印生順謹書

碑石

下宮別當職權大僧都法印張仲誓首敬白
江島の屏風石と云々相傳の碑の折れ
ある宗廟の到り慶仁禪師の碑と云々
まじりて小篆文字の大小篆と云々

肉目

日本國江島靈迹津美山此
此の四方雲龍の鑄を古雅風流の
石面ふ石月の露ありて十界性人
金さのまじりて碑圖の鎌倉志ふ

下之坊

下之宮の護つ真言宗妻帯あり

銅鳥居

此の入口の立ッ大母財天を額と云々

住吉祠

山口の荒神祠の小山の半あり其形蝦蟇に似たり

福石

下之宮へちる坂の半あり俗談云石の側よりちりも

蓮義池

山中ありむ一上人遊禪の時此所河原陀伴有縁の

一連上人自承の額あり蓮葉水と書ん

今岩本龍窟ありく什物と云
兒喘 龍窟へ下り岩下の岩あり相傳つて建長寺廣徳庵ふ

江崎小舟山沖あり美少年小遇蔵主戀慕のこし止りて

ありらんかの伴へ僕を向を鎌倉の相承院に住ゆ白菊といふ見たり

若くはれり人さきく竊ふさひの海へ書て求れども更ふ

諾するの途ありぬれども月と累く切ふ夢えたれを白菊情あり

賜れども酒ふりさるる月と累く切ふ夢えたれを白菊情あり

そのあやありらんあはれはれぬ江崎小舟山沖あり

白菊ふちのふれ里の人さきくさひ入江の流と云ふよ 白菊

うれ事とさひ入江の流法ふと云ふ今ハ岐の下至

の二首の辞ありけし御身ぬ流と終りなき自休慕ひまら

けふと云くさひふ唄び一律と賦と

懸崖嶮處捨生涯十有餘霜在刹那

花質紅顔碑岩石娥眉翠黛接塵沙

衣襟只濕千行淚扇空留二首歌

相對無言愁思切暮鐘爲執促歸家

白龍窟 龍窟より東へ廻りて二首の窟へ二つの白龍つらふ

あいらぬ龍のふく海ふり入江の流やうれけ

白菊が海と鎌倉ふあり自休の像を同門法華堂ふあり

えん 見たり御より岩あり小坂あり岩に裂けありされと

白龍窟 龍窟より東へ廻りて二首の窟へ二つの白龍つらふ

龍池 ありくは龍池の女助又根本の金窟ふして代々の御師ふ

あつ小龍よりひひしとく是忘談ふして

其證あり 龍窟の東とつら入りて山半腹へ掘りて富士の

飛泉窟 白龍つらふも棲むと云ふ

自休

花質

衣襟

相對

白龍窟

えん

白菊

うれ

の二

けふ

懸崖

花質

衣襟

相對

白龍窟

えん

白菊

うれ

の二

けふ

懸崖

花質

衣襟

相對

白龍窟

自休

花質

衣襟

相對

白龍窟

えん

白菊

うれ

の二

けふ

懸崖

花質

衣襟

相對

白龍窟

えん

白菊

うれ

の二

けふ

懸崖

花質

衣襟

相對

白龍窟

江崎例祭
 毎年四月初巳日
 唐本宮より山廻り
 御祭神を奉迎せし
 祭礼あり



六ノ九

一甲澤影

江の湯や
 あつひ涼し
 積りて
 古神かくは
 波のまゆらん
 舞橋
 舟橋
 仲此
 うのり
 海市
 富士谷成章



江嶋大洲傳云
まゝの社の神跡の人已貴命や久延彦命と信奉ありて天照大神
尊之其如鬼狐犯之富主媛命と號すは神天降るひて女財天女
とす身江嶋に神秘とされしと神系圖或は和漢之才圖會小相州江嶋の
神の素盞烏尊の河女倉稻鬼神と書さされ謬之云
別出右本傳一書は
秘書 又大縁記云 延慶寺 大日本東海道相模國江嶋の天龍八部は所造
辨財天女の靈迹之蓮而靈鳥は先紀と檢されの房藏摸二國の磯多鎌倉
與海月郡ふ四十里江湖の深隈とわけく其體の水洋々として四山影を
逆ふ摸一雲霧濛朧として谷を藏一豺狼岳ふ滿つる人さるふ到れを
黒尻指と稱し白浪岩ふ咽ふ故ふ人跡湖邊ふ絶ぬふふ又五頭の惡龍
ありく園内ふ適満して災禍とるふ事多しつる時山崩きて洪水
田野以流さる本損弊して病疫多しふ起る 景行帝は所時惡龍
まふ核仍し火の雨と降る人民され小懼されく石窟とのりて人屋と
安康帝は所字少の園大倉小苑して多狐も惡逆熾んて武烈帝は所時少の

金村大屋小苑一まゝ乱妨と企むは時小五頭龍津村の水門ふして初て
人れ子狐嘍ふ於是初嘍澤と號く時小は所小長者あつて十六人の子持皆惡龍
の屬小吞れく長者歎悲一屋以西里小後一彼屍とく小埋むられと
今小長者塚とす其後惡童ふ狐村邑小歩く多の鬼狐喰ふ故小人民
畏れく作不然其所と子死然と号く 今腰掛てふよそく人いひさ
老人狐をのり惡龍の贅小供ふれと今も龍口とふ 欽明帝十二年夏
四月江嶋南海水門小ふく雲霧江頭小蔽ひ雷電波浪小擗り天女雲上
小現しゆふ是重化右小依奉一諸天龍神の空中より磐石小降し海
庭よりい沙石小奉て海面小一尺考知れ今江嶋され其時十二の孫
來て仍小倣個に故小務來考ともいふ女財天女とい寫に天降るふ容貌
微妙しして金窟小耀々りの五頭龍の天女神威小懼れて屈伏し
却て國家豐饒の守護神と成今龍口神祠とされ之版后 文氏帝四年
夏四月後行有豆州の文岩小在て遙小北海小龍の晴室小紫雲覆録と

行者專不動其咒と稱し其時瑞雲窟中に起り光明空裡弘照一忽然
中して天女化現し八臂は尊體小して是女天経現の最初と云老七年
去二月秋泰澄江修不到り陀羅尼弘誦を毎日亦生身と現し弘仁五
年去二月弘法大師聖跡弘修を令く東海小邇く相州津村の濱に至り遙
小南海弘眺めを聖聖あり修の頭より彩雲浮んで雲上小金龍弘見し修
大師教して船小糸し一島不到り金窟小入り政坐する中一七日專真
言陀羅尼弘讀満ざる夜窟中嚴淨して梵樂聞ゆ天女忽然として
現れ八臂具足の相好弘見せ大師小一偈弘示して曰

三界是我有衆生亦吾子
此處多諸難唯我能救護

承安二年文覺上人豆州謫遷時武將頼朝々小羯して義兵弘上さるる免
文覺江修おきて每財天小祈願し其後四海治平天下靜謐日寸覺房は龍窟
小泰籠し奥州伊達秀衡調伏弘修とい日金窟小居弘建らる其外豫
倉武將の尊仰ありし龍穴にて祈雨の事相東鑑ふん入るる文
六ノ十一

權北條四郎時政江修小泰籠して子孫の繁昌弘修をたり二十七日小ありくる
衣緋袴小柳裏に衣着る女房の端嚴美艷を多忽然として生り時政小
若て曰汝が赤生の箱根の法師之六十六部は法多経弘書寫して六十六箇箇の
靈地小奉納したり一若根小うて再びいしはる身弘得る然れば子孫永
推と執て榮花小やめるべ一但奉勳違ふ所あらば七代と云ふるは吾も
不審あらしむ困々小納し所は靈地と云ふと云捨て帰るの事其安弘見しを
巖しつり一女房忽長二丈許の大龍と成て海中小入り其跡弘見し大
鱗之牧殘せり時政所願成就しぬと喜て則ちの鱗と取て旗の紋を授け
る此條之鱗形は紋是之其後毎天の所示現小任て困々の靈地入弘修し
奉納は法華經弘見し一ゆる小俗稱は時政と法師れ名小換り奉納の筈
け上小大法師時政と書たるを我々不思議をれとを平記ふもいなり其
星後甲て天文十八年閏八州の太守小条氏康江修は神殿諸社諸堂の
荒蕪と歎き天金神劍神馬弘納らる其後代々 將軍家は河内家附

日蓮上人
齋跡



龍口寺



龍口神祠

津村ふあり糸神江流大岩嶺ふあり例宗九胡九日社傍と

龍口寺

江流大岩嶺ふあり龍口山といふ名あり

日蓮上人像

本堂の内陣厨子ふあり畫賛ふ云文永八年九月十二日日蓮

敷草石

上人難ふ遇ふとあり又一名首座石といふされと龍口の寺

七面祠

本堂の東 番神堂 七面の南ふあり松平飛騨守利次の

經鉢編花

本堂の西 日蓮上人土牢 本堂の西山麓の

敷草堂

本堂の東向ふあり祖師の像

光の松

門内の左ふあり日蓮上人難ふ遇ふとあり時以松枝ふ光明

長者塚

龍口山の東ふあり山中ふあり江流記ふあり長者十六人の子

長者窪

長者窪の東ふあり長者十六人の子

初政隈

長者窪より北の方十五六町許山嶺と綴く谷中ふあり今ふ

固瀬川

固瀬川より西ふあり固瀬村といふ氏家ありむり川端あり大在

唐原

唐原の東ふあり唐原といふ名あり

西行願松

唐原の東ふあり唐原といふ名あり

唐原

唐原の東ふあり唐原といふ名あり

宗尊親王

宗尊親王の御所あり

藤原為相

藤原為相の御所あり

人左

人左の御所あり

光明

光明の御所あり

光明

光明の御所あり

光明

光明の御所あり

光明

光明の御所あり

光明

光明の御所あり

光明

光明の御所あり

光明

光明の御所あり

光明

光明の御所あり

ちろちろの中をそくたれまきく遠く見たり原 後念ふ
と海よりどろどろとこぼれしう白く、西海とてしるこころはく
錦をむらるゝあうふねんさるなり

砥上原

斤願川の西ふありは少八ッ松原といふ所なり
源平盛衰記ふんこころ

西行抄

やまこころ原吹さるふ登原のまねれおゆる風さきつれ麻の啼きえなれを
柴松のふまねれまふ妻あててこころさふ小麻鳴あり 西行

陶ちうれこころふ小駒さえて斤願川の志ほひとをもの 長明

立帰る名残をまふ借ひんこころさふ小麻鳴の冬枯

八ッ松の八子代のおけおあのをれてこころさふ小麻鳴の冬

被浦

まふ

左右被ふおゆる
あまのふ被れ浦のつひわらふまねれおとぬたひひさるん 後念ふ

七里濱

腰被りし稲村寄す七浦道に十二町あり東園の六町ま三里ともり
七里濱といふ所古戦場にして今おあわくも刀劍の折る又美具

の銚或い骸骨をく真砂の物より出る中より南方の大洋沖にて風あつて
時の浪ちうて裾被ぬふ侵れははく黒花砂あり日映むれば光あり黒漆の

小動

七里濱の西ふあり 巖山

小動

山上ふ八王子洞あり

小いさやれおもふ海ぬちや様ちゆり

行合川

山の方山谷より流れ出七里濱より海へ入日蓮上人龍口の龍小遇ひ
時多端多れを鎌倉へ註進の使と又小桑時頼殿の赦免の使と

け川より舟合しとりの名といは川より島岡まで四十町あり又

稲村寄

七里濱の東ふあり 東鑑云建久二年九月廿一日頼朝が海濱吹越
流しは所少し小笠原の侍負ありしをい諸侯様も原とす

太平記曰

南の稲村寄少く沙頭路狭さふ浪ちゆきを逆原本は蟹く引ぬく
澳四五町が程大船も入及へる櫓とひて横矢以射さると様ちゆり

実もは陣のさき叶り引ぬらんも理へと入ふれは我貞馬より下給

て甲と脱て海上の遙々と依れ龍神小向て祈誓しあひ多の傳承る日本

開闢は神主伊勢天照大神の本地大日れ尊像お隠し垂跡は滄海の

龍神小頭一給り吾君其苗裔として逆原のふ四海の浪お漂ひる

義貞今居る道公をさんふ芥嶽と把て故陣小徳む其志傳ふ
王化公資け奉て蒼生安んじあんと仰願の内外海外龍神
八部に忠義公堅く潮水公萬里の外小退け道公三軍陣小陣の
一先のと至信小祈念し自佩給る金幣を方公按て海中投入
ゆひたり真不龍神初受やゆひたり其夜の月け入方小前より更ふ
干は身もあがりたる縮村寄俄に二十餘町干上り平少勝々々様
矢射きて撞ぬる救ふれ兵船も落りけふ誘れて遥の瀬小漂へり

袖の浦

縮村寄の海浜社のゆへに故ふ名とけり
又出羽ゆとあり奇ゆよりてそれとけり

所集

袖の浦は花の浪もゆるりけいり多秋の色ふ恋はく
袖の浦ふたまきもむのぞけはよりて遠くのつる波に 定家

家集

志死をみふをりや糸を袖の浦さく涙ふは船もあし 西行

針磨橋

縮村のふふあり鎌倉十橋の
其一橋あり

月夜谷

極楽寺切通の西の方あり
昔ふくやく磨公ゆる者位とけり

阿佛尼第蹟

月夜谷ふあり又藏臺の巖谷英勝寺境内あり
乃佛尼の藤原為頼卿の母公あり

十六夜日記

東や西位やあり月夜谷とやゆる浦近山とややく凡いし

あし山寺は像ありのやうふとて浪の音ね凡えけ

靈山極樂寺

極楽寺切通の末瓜あり
南都西大寺の末瓜あり

尊釋迦佛

龍聖菩薩の化京師差我釋迦以摸ひ左右十大童子
尤小聖聖菩薩右小忍性菩薩の像又文殊菩薩と安け

高山麻基の忍性菩薩又良觀上人と号れ父の伴眞行母の根本氏に
和州城下郡勝風村あり建保五年七月十六日誕生十六歳の時
母公逝したれを菩提心訪んが為小和州額安寺小於く釋迦
東大寺より登壇受戒しやれり諸山あり若修練忍性菩
薩と号し七十八歳の時永仁二年極明四天王石花表建
高サ二丈五尺嘉元元年七月十二日俗より下り入寂
其年八十七歳生歴二百五十戒公撰の寺本願の陸奥ち平重時
は極樂寺に營く發病より終半公抱く一心小稱名念佛し終
る弘長元年十一月三日卒は年六十四

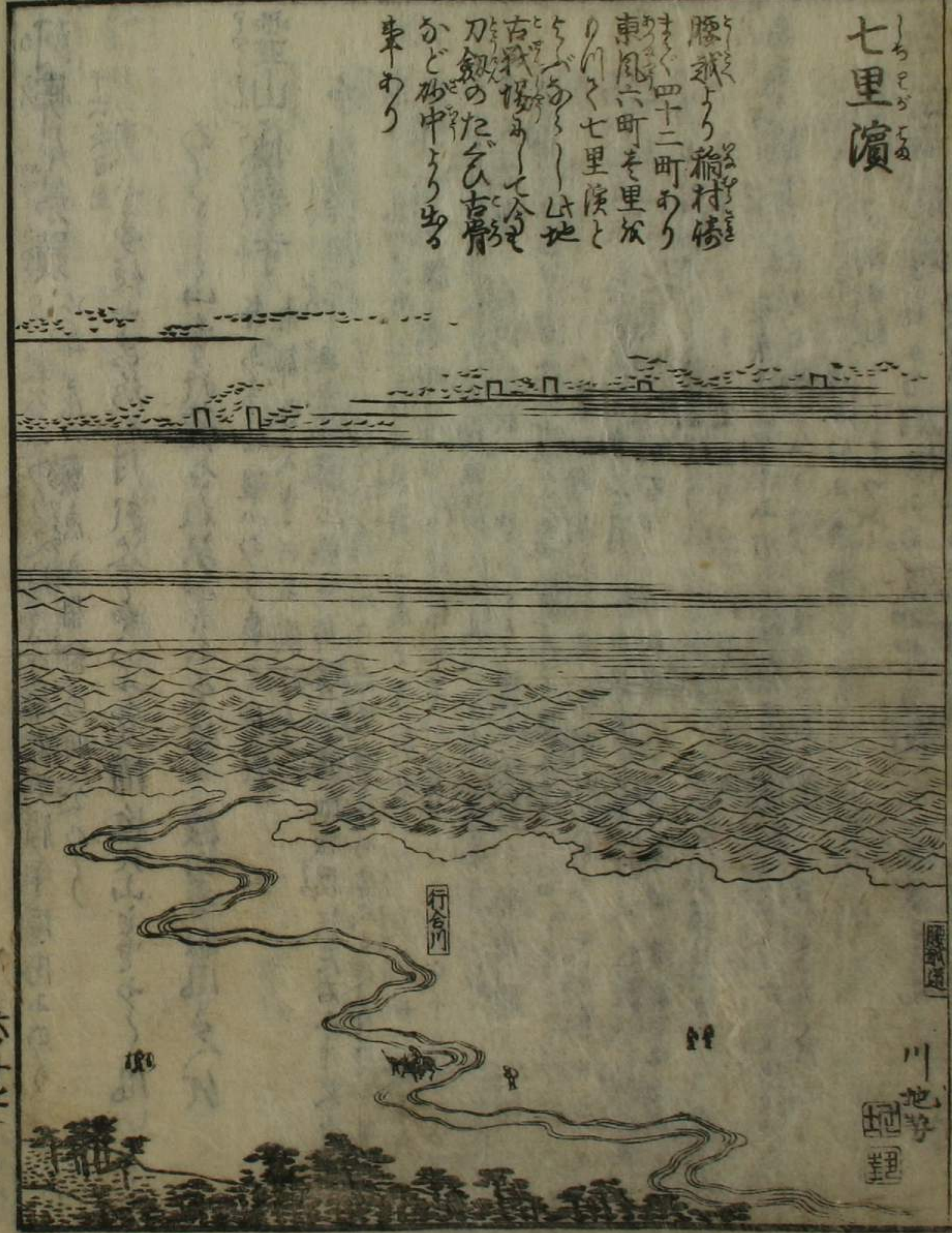
極慶腰掛松 極樂寺境内あり俗傳云源義經况頼朝の夜通の記後
追返されし時極慶は松小胸瓜かけし

鎌倉の方公白眼しとけり

極樂寺切通 極楽寺あり由井の侯へる切通しと

七里濱

藤城より稲村橋
東風六町を里に
りつて七里濱と
いふありし地
古戰場ありて今も
刀剣のたぐひ古骨
かど砂中より出
来り



六ノ十七

古戰場

百戦人安在蕭條
逐鹿京陣圖空
臥石運數盡枯根
鬼哭陰臺夜燐生
舊雨痕因悲千古
地來者亦難存

皆川洪園





伊藤権子馬頭

稲邑寄



六十八

鎌倉

北の山内と云々其中小谷七郷十井十郷七の切通五水の名泉あり其外
名所 齋跡神社併利多一軒を鎌倉志小見たりありあり大畧畧畧
万葉

分施

日

拾五

ま本

日

鎌倉記

忘れ果かりほむとあり成りたりゆき老い少いの山 大地吉公住
かれ果かりほむとあり成りたりゆき老い少いの山 實方
あつたりの色地海つゝ鎌倉山の妻乃花園 基領相尚
きうーゆも立ちて故され民け戸の多りあはるる鎌倉に里 基細
この海海やらまゝ郡の其中ふいこのまゝくはく初らん
十と幾らまゝり五とせまても住かたてな忘られぬ鎌倉の里 宗尊親王
押鎌倉といふ名はむろー大織冠鎌足公のまゝと鎌倉を申す時 紹攷
蒙りて鎌倉神社宿一の折うらひ國由比里小泊せり其教養の御告
わつゝ寶器といふは徳宗大藏山松ヶ岡小埋のひる 鎌倉志曰鎌倉の字は金
書り金ハ則西の方瓜形ありあり白城形あり 又よの政と云ふ人君と
在りて平天下の政はよく行いゆへ半一理の明白ありと云

天智帝の御宇少の鎌足公鞍化入鹿公殺し中臣の姓と改り藤原と賜り

因大臣小任は益と和州多武峰をて藤山権現と称げ代々執柄家と

して天律見を根合は裔孫今ふ連綿たり鎌足公の裔孫藤原をを易

たま時忠 南都東大寺長辨僧正の文 文武帝王の聖武帝神龜年中

まで関八州總進補使よりて東夷公平治の殿后平將軍貞盛の嫡孫

上総助直方守護よりて鎌倉小在城に鎮守府將軍兼伊豫守源頼

義いまで相模守よりて直方が婿と嫁ひて八幡を易義家よりて

めて出陣しぬれれり源家相傳の地と成て遠く治承五年源頼朝公

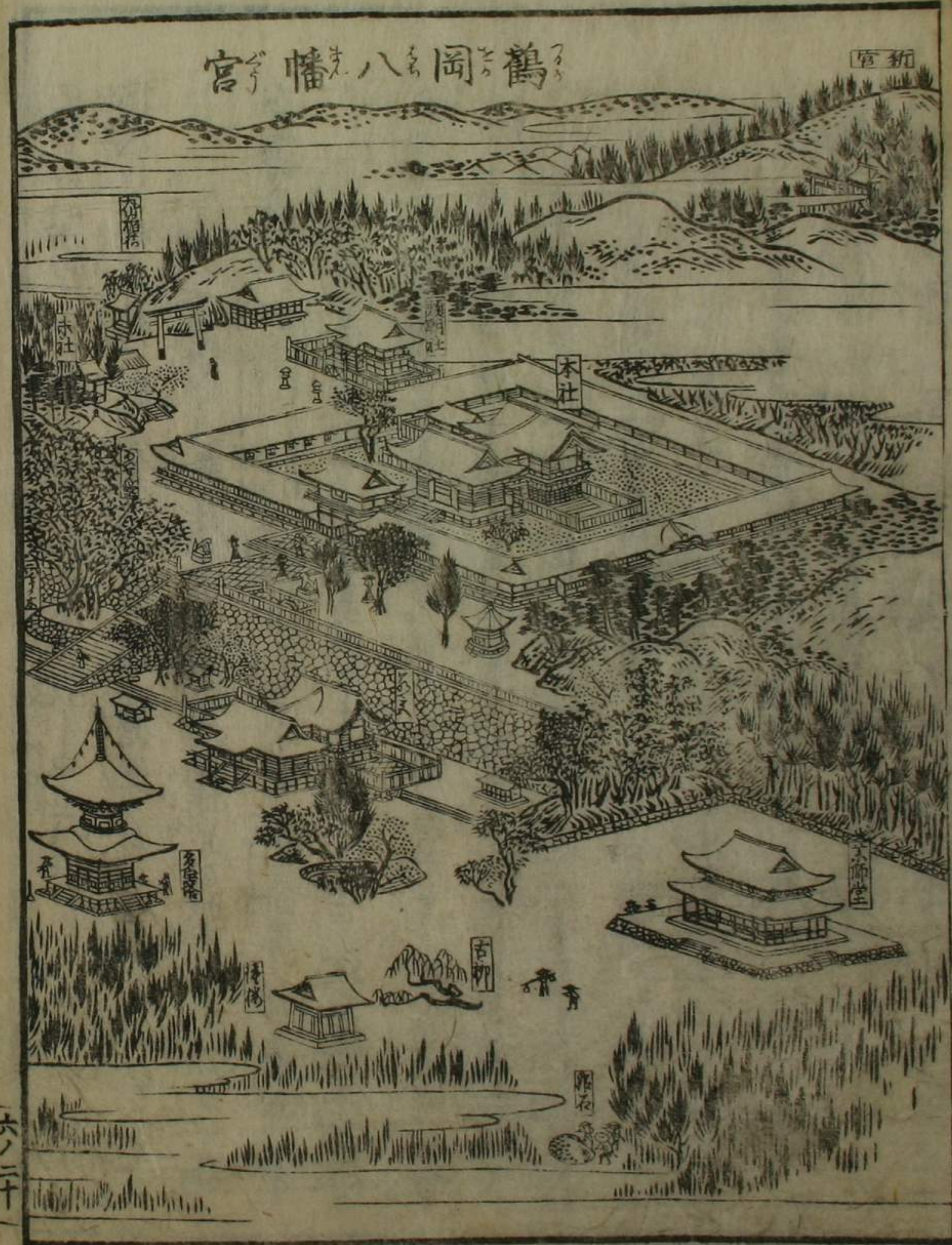
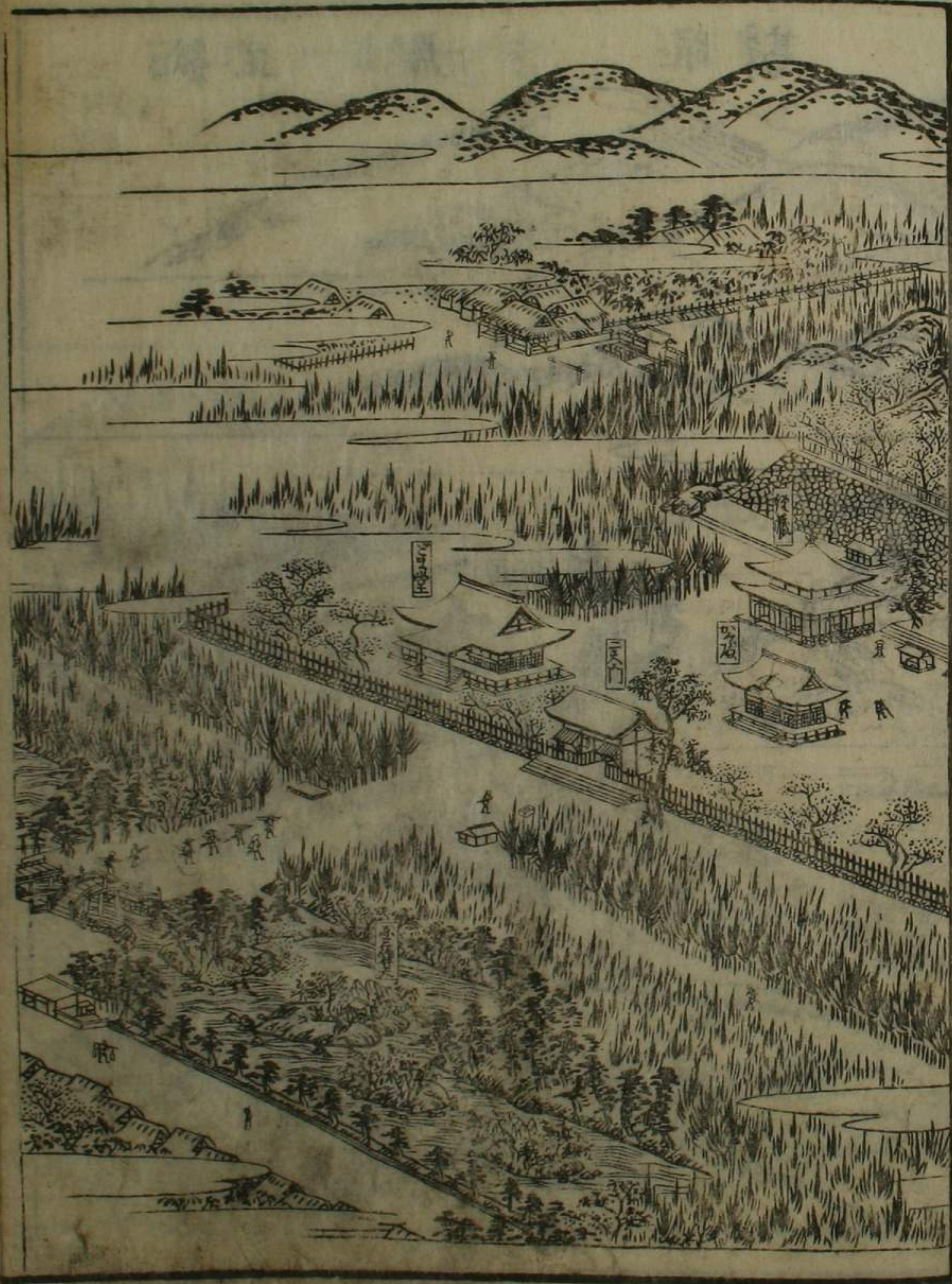
右大將征夷大將軍は宣旨を賜り隆業公嗣死四海公掌小握り四夷

八蠻を鎮め三代の將軍九代の執權穆々として光輝と赫し一萬民に

掩育しゆへ半夏般周の之代の隆ありは法則あり典ありむろ

れ繁栄の系鎌倉と及りて東海近く西北の山連り封境狭く

平地少く院小谷を計号ありぬるが代不易は江戸の競れ半だも速に



琵琶橋 下客



葛段 居鶴一正



由井溪
おかのこ
おんとうりか
大倉居



六ノ九二

鶴岡八幡宮

瀬倉中央あり舊名小幡郷松岡といふ宮なり此の
 まふ遷座あり東遷ふんぐり此の号は松岡といふ宮なり
 八月十五日放生會あり同十六日流籠馬廻模あり又二月十一月
 初卯日臨從あり社領の永樂張八百四十貫文といふ郭にて瀬倉
 一郷ハ古代の風俗ありて後とゆりて寺社領に極む
 古
 宮とて遷座ありて今七さのへん瀬倉の里
 瀬倉右大臣

折於き

鶴岡正ありて松岡吹風の雲井ふひく美代の尊

左大臣

家集

おんとうりかきよまはる里を死鶴の部ふり郭に 居相

本宮

中央 應神天皇 在大中
 神功皇后 已上社

武内社

本社の左あり高良明神 樓門 本社のかあり願ふ八幡宮
 竹内良忍法親王のそを左に

豊饒間戸

樓門の左右あり東の方 將軍家神所
 常々天下泰平の續けりうれと座不冷し

の神

常々天下泰平の續けりうれと座不冷し
 てり今急慢あり廊のありふり財天愛不動不動

七社の神

七社の神 豊饒間戸 豊饒間戸 豊饒間戸
 神ふり今急慢あり廊のありふり財天愛不動不動

若宮

仁徳天皇 願ふ宮大推親 青蓮院 尊純法親王のそ
 文治の風白柳子神所ありは神ふり

祭神

仁徳天皇 願ふ宮大推親 青蓮院 尊純法親王のそ
 文治の風白柳子神所ありは神ふり

松ヶ岡稲荷社

本社の西の方を山といふ所あり初め今社の本社の地あり
由丹屋より八幡宮遷座の時此地に移せ故に地主の神といふ
末社 三所 熱田 三輪 住吉の四所あり宮の東に祀り又 稲童 源太夫

神明宮

上の宮右に居階の下 頼朝祠 本社のおれ方回廊の外あり
西の方ふあり

頼朝々の本像あり 住吉右に坐す天宮安ん傳云源頼朝々の建
立といふ毎季正月十三日奉樂以奏して神事あり
愛染堂 又堂内小地蔵あり

竈殿

頼朝祠の西より神依所
寶滿菩薩あり

影向石

本社の西の方あり相傳正應二年二月四日影蓋風雨して
あふ龍神あり

六角井

回廊の外東の方あり六角堂の内ふ
法泉あり故に名とせ

銀杏樹

石段の下西の方あり東鑑云承久元年正月廿七日 將軍
實朝々右大臣殿御覽の居ふ八幡宮社殿の時辰は未運ん

轉輪藏

下庭西の方あり相傳實朝々宋本の一切経を求て建曆
元年十月十九日永福寺に於て供養せられし蔵あり

藥師堂

下の宮の東あり薬師如來十二神將と安ん
東鑑ふあり神宮寺と稱れ

柳原

薬師堂の傍あり古柳あり
土人傳く古柳あり

護摩堂

輪藏の東あり五大尊及び運慶の他大威徳明王の乘
り牛の足膝の先より傳云義経公調伏のとき膝を

多寶塔

東鑑云文治五年三月十二日津塔供養あり
東鑑云文治五年三月十二日津塔供養あり

鐘樓

塔の東あり塔大サ且三尺五寸厚サ三寸五分
塔の深さの如し

夫當宮

者馬臺東戌之州鶴岡甲區之地模男
山之宗桃弘尊廟之推扉以降禮神之周頌祇

之堂

馬禮頌不儼春禴之奠秋嘗之儀矣春秋
幾回鎮護年尚答貺日新然間去茲迎姑洗不

圖欠

靈祠肆深仰玄鑿忽跂經始課般極兮是
尋是尺用規矩兮不愆不忘土木之勤既雖及

兩祀

斧斤之功殆可謂不日傍斯苦孺而復
基先擊蒲牢而發鯨音乃作銘曰

基先

擊蒲牢而發鯨音乃作銘曰

夫當宮

者馬臺東戌之州鶴岡甲區之地模男
山之宗桃弘尊廟之推扉以降禮神之周頌祇

之堂

馬禮頌不儼春禴之奠秋嘗之儀矣春秋
幾回鎮護年尚答貺日新然間去茲迎姑洗不

圖欠

靈祠肆深仰玄鑿忽跂經始課般極兮是
尋是尺用規矩兮不愆不忘土木之勤既雖及

兩祀

斧斤之功殆可謂不日傍斯苦孺而復
基先擊蒲牢而發鯨音乃作銘曰

基先

擊蒲牢而發鯨音乃作銘曰

夫當宮

者馬臺東戌之州鶴岡甲區之地模男
山之宗桃弘尊廟之推扉以降禮神之周頌祇

之堂

馬禮頌不儼春禴之奠秋嘗之儀矣春秋
幾回鎮護年尚答貺日新然間去茲迎姑洗不

圖欠

靈祠肆深仰玄鑿忽跂經始課般極兮是
尋是尺用規矩兮不愆不忘土木之勤既雖及

兩祀

斧斤之功殆可謂不日傍斯苦孺而復
基先擊蒲牢而發鯨音乃作銘曰

基先

擊蒲牢而發鯨音乃作銘曰

治鑑甫就 寶器鑄陶 龍文製妙
 鳥巧奇標 形非哆吟 聲不微飛
 應隍陽律 入宮商調 小大共振
 清濁孔昭 帶霜早和 隨風自搖
 式驚千界 高微九霄 梵響無斷
 尊三會朝

正和五年二月日

○實朝祠 奉社の坂の下小なり 柳宮明神と号れ

○二王門 奉社の正面より左右金剛力士が安んじ額小幡岡山と書れ

○赤橋 奉社より石の及橋のつよま五間小中三間

○神池 赤橋の左右あり東方は池中小三間の池あり西方は池小四間の池あり

○辨財天祠 東方の北中あり保文の像を運慶の化藤小琵琶が持し

○一鳥居 石柱の及橋の南あり石居あり宮小ありとて藤合

○段蔓 社あり由井後まぐ道の真中高一段高六間許高式天の道あり

○二鳥居 一鳥居より五間あり

○三鳥居 四間十五間半あり

○四鳥居 五間十五間半あり

○五鳥居 五間十五間半あり

○六鳥居 五間十五間半あり

○七鳥居 五間十五間半あり

○八鳥居 五間十五間半あり

○九鳥居 五間十五間半あり

○十鳥居 五間十五間半あり

○十一鳥居 五間十五間半あり

○十二鳥居 五間十五間半あり

○十三鳥居 五間十五間半あり

○十四鳥居 五間十五間半あり

○十五鳥居 五間十五間半あり

○十六鳥居 五間十五間半あり

○十七鳥居 五間十五間半あり

○十八鳥居 五間十五間半あり

○十九鳥居 五間十五間半あり

○二十鳥居 五間十五間半あり

○新宮大権現 坊中我覺院の門あり方入る身を町許あり
 後多胡帝の尊靈が鶴岡の軒の山に麓小ありこれやりの怨霊
 大樹の根一柱あり社の後いれ其高サ十餘丈且三尺許あり
 老松の土人云は地ふ大約あり樹とて
 神主館 馬場小落小居れ大伴氏とて頼朝の書翰代々
 將軍家の文書が家藏とて又少別當とてあり
 大庭氏と号れ
 同所小居れ
 ○十二院 鶴岡西の方小居れ社に供僧ありありとて五坊あり
 院宣院奉院
 惠光院 増福院 海光院 正覺院 我覺院 淨園院
 香象院 莊嚴院 相承院 安樂院 等覺院 最勝院

護良王
竈土牢



法橋中和

大塔宮二品親王ハ
後醍醐天皇弟三宮
みて聰明叡智ヲ
尚〜東宮ふも立
方ハ〜と運乱の世ト
あり〜武家ヲ捕れ足利
直義ヲ謀計ふるハ〜鎌倉
二階堂ノ谷ノ土牢ハ〜
困〜あり終ハ閉居候事
〜獄〜あり魯公子
聲籍〜隠〜獄ト
たごひやあらん



鎌倉十橋 筋違橋 歌橋 脇が橋 裁許橋 針磨橋

白山重忠第 西少小なり

蛇谷 あり宮の東少あり砂石集云むり一の編くふ住る人の娘宮の

荏柄天神 大森村の本金氏道の山例小あり東神天満神尊像あり所後

覺園寺 二階堂村少あり響野山と号れ宗義四宗兼學

本尊薬師併 日光月光十二神降共不運慶の他寺用山の願行

黒地蔵 池蔵堂小安の額大地版と書け寺流云い地蔵尊地

大樂寺 覺園寺の山あり樹桃山と号れ律宗用山公珍和尙

本尊鐵不動 願上人の他國大山寺の不動尊と傳一對式小

明王願の他

鎌倉十井 六角井 棟立井 瓶井 取落井 鐵井 泉井

棟立井 茗師堂谷の山上あり相傳弘法大師

大塔宮地牢 二階堂村の山際あり窟中十尊安許首塚ハハ

建武元年五月二日大塔宮兵部卿護良親王弘足利直義うけ

なる鎌倉下二階堂谷小土籠以塗て塔をすもも足利六下

依係吞せんと意多れば親王を後坊とて淵色伊賀守を傳小令

トイテ茶師堂谷馳りて宮次刺殺し進らせも下知せらるれ

は淵を畏て承りいそて建武二年七月廿二日山内由より主従七騎引返

一宮の傳まき籠れ所を泰らぬれ宮の園歌のわら土籠小朝

ありぬるともさう尚焼と掘け所経遊りてり所有るる淵谷

ありぬるともさう尚焼と掘け所経遊りてり所有るる淵谷

ありぬるともさう尚焼と掘け所経遊りてり所有るる淵谷

ありぬるともさう尚焼と掘け所経遊りてり所有るる淵谷

ありぬるともさう尚焼と掘け所経遊りてり所有るる淵谷

ありぬるともさう尚焼と掘け所経遊りてり所有るる淵谷

ありぬるともさう尚焼と掘け所経遊りてり所有るる淵谷

ありぬるともさう尚焼と掘け所経遊りてり所有るる淵谷



狩野維殷助永俊圖

青砥叡智
天下才



六十三

天台山 一院亭の北山谷の藤倉將軍館より鬼門ふあつて之を師

歌橋 在栖天神の東小あり 藤倉十捨の其一也

文覺屋敷 頼朝鐵趾の南小あり頼朝々小義兵とよる 藤倉十捨の其一也

大御堂谷 勝長壽院の古跡也 大御堂の東小隣り小条泰時亡父義時

釋迦堂谷 大御堂の東小隣り小条泰時亡父義時 釈迦堂の古跡也

唐絲馬土牢 則土の牢とつゝ相傳つ唐絲馬の土塔多くありて頼朝々を殺さんと

杉本觀寺 所の茅きまきまの南基へ行基僧正 金沢道のゆふあり天台宗大藏山杉本ちと号は東巡礼

本尊十一面觀音 慈覺大師の他を右あま立共十面觀音を右慈心の他 右の基の他を右の運慶の他

滑川 右の基の他を右の運慶の他 右の基の他を右の運慶の他

持る後と十ヶ滑川へ捨落たりたりと少半は物なれり

へりりと以外小周章て其の町屋へ人を走らして後五十ヶとつて

續松と十把買てあれ燃し遂に十ヶの後と搜し得たりる成人云十

文の後と求むるを五十ヶ續松松當て燃したる小利大損哉と笑

たれば其後在傍門眉と擲てされば其後差違ひあつて其の費は

あつて民は恵む心あつて人なれば後十ヶのみ今求むる滑川のある處

水く失ぬべし其が續松の五十ヶのみ人お留て承くたなりし我

擲の商人の利之彼と我との差別はる彼此字みれば後一も亡と

豈天下れ利非ざるを爪弾としてやされば其後難して笑はる傍の人

人の舌は唇で感とるは北條時頼の上聞小達しされば青砥

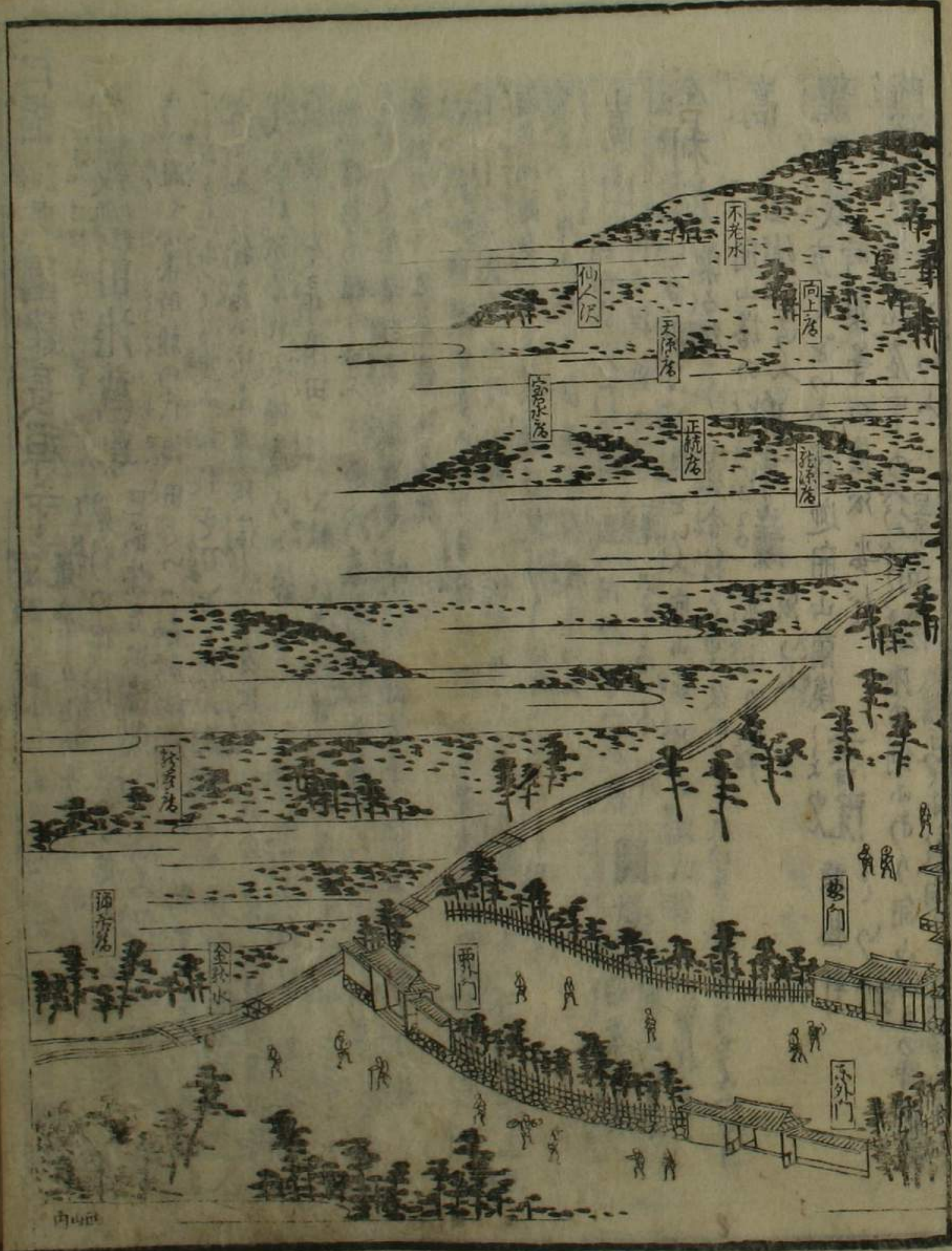
召て天下れ政勢はさるは後松家らして先ぬ

淨妙寺 杉本寺にあり禪宗藤倉五山其其一也廂山退耕和尚 寺領四貫三百文藤倉守縮荷祠あり故に縮山と号れ

佛殿阿弥陀佛 廂山塔陀花明院とつゝ廂山の木像は安ん

尊氏第蹟 淨妙寺の東に其の地を將軍尊氏の館とて公方屋敷の 号あり後代々自東官願殿の屋敷と号

五大堂 尊氏第の東にあり明王院とつゝ真言宗 將軍頼經の折願所也



ハリック



建長寺

下河邊 維惠寫

六三三

巨福山興國建長禪寺

應仁の化長... 傳云... 建立... 巨福山興國建長禪寺

佛殿濟田地藏尊

佛殿濟田地藏尊... 應仁の化長... 傳云... 建立... 佛殿濟田地藏尊

開山塔

開山塔... 佛殿のまふあり... 達磨像... 開山塔

嵩山

嵩山... 開山塔外門の額... 佛光禪師の筆

舍利樹

舍利樹... 開山塔のまふあり... 佛光禪師の筆

圓鑑

圓鑑... 昭堂の額... 開山の筆

龍王殿

龍王殿... 方丈といふ釋迦開山蘭溪... 書院... 龍王殿

蘇碧池

蘇碧池... 書院在中の影向松... 蘇碧池

銅碑

銅碑... 皇國萬歲... 元禄第五壬申五月吉日... 銅碑

巨福山

巨福山... 總白の類筆者不詳... 一説小翠一山又趙子昂... 巨福山

法東海

法東海... 東方外門の額あり側小... 細書... 法東海

天

天... 西方外門の額あり側小... 細書... 天

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘... 今上皇帝... 千佛垂手扶持... 諸天至心擁護... 佛殿梁牌銘

夫の山は後深州院宇建長元年の創建なりと角山の宋園大覺
禪師諱道隆又蘭溪と号し奉願の山衆相模守平時頼之併殿
莊嚴微妙にして又井の画と持燈元信彫物の方々を身が作といふ
殿内の傍に陣鐘陣を鼓あり寺僧云これ頼朝の宮中の牧狩の時
用ひの真之と我金龍水の西の門あり鎌倉五水其二箇之勝上巖の
方丈の北より高江山依りよる團溪に坐禪窟ありむり一禪師は
窟中に静坐し一ゆ所一過上人来りくむか以依あり

禪師云一過上人
禪師云一過上人
一過上人
大覺禪師
姜巖塔の趾は後山へ至る路の左あり觀瀾閣の禪窟は赤あり今
の廢せり仙人澤の幽閑の地あり勝上巖に西より不老水の仙人澤の
傍ありてあり五水の其二箇は院中今僅十八院あり一々
其中の玉雲庵あり女坊夫十五童子は安ん弘法大師江寫して一万座あり

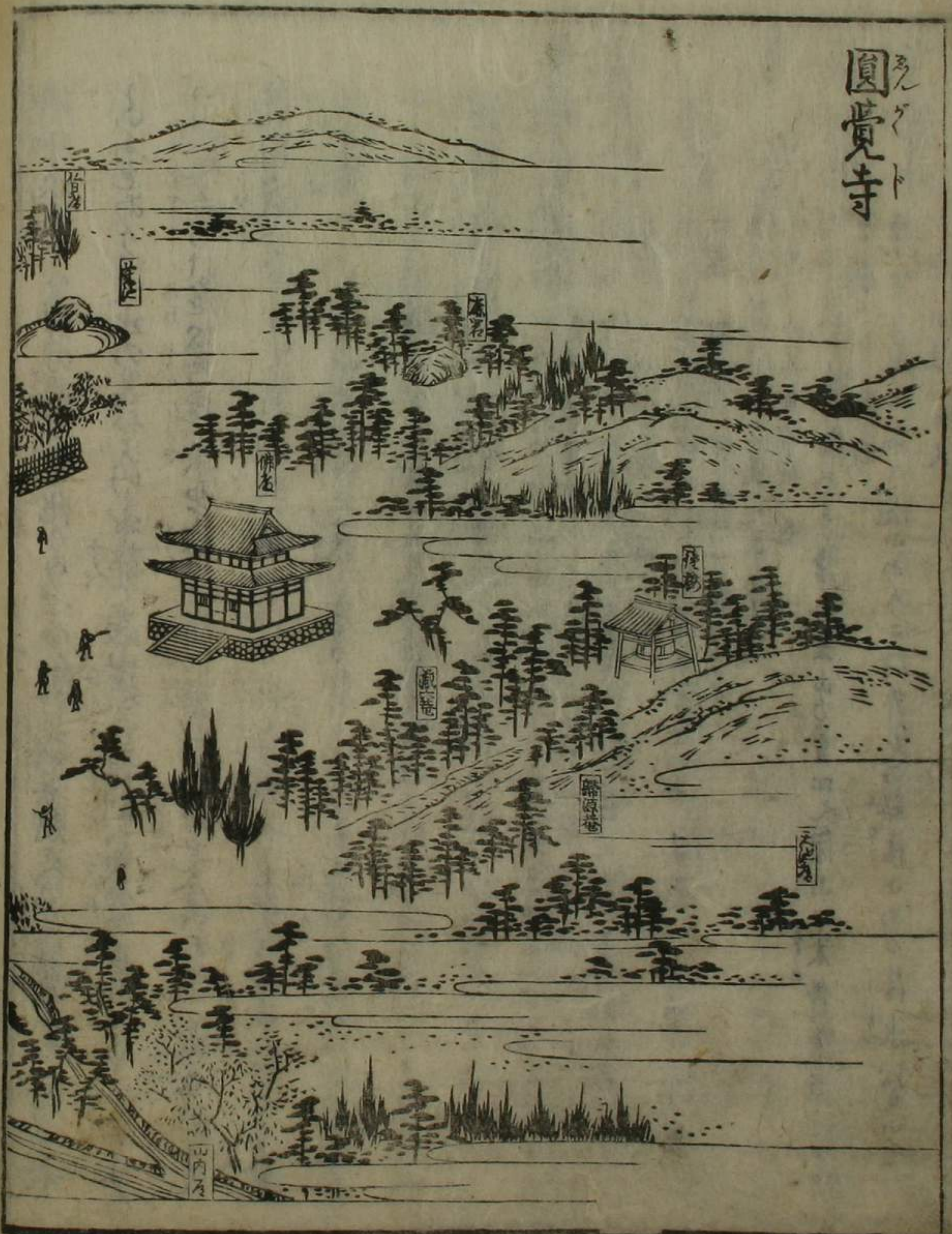
護摩の依り其時の灰を自依りあり或は蛇形を財天の望雲窟あり延命水
といふありて五水の其の二の都て高山建長禪刹の典廉真妙ふりて落ふ
り建長寺は在る掃木を掃ふは清浄なるは誓言今むりありありと
院内寂寥なりて寶閣雨を落ふ落り丹青斑ありて花は清く香
を登芳くくくして衆禪の基ありむり一山衆の熾る代ありあり
十の一二も速りけ今寺は九十五貫九百ありと永遠の傍りありあり
鎌倉一洗の旅客の押解ふ導れあり到らばといふ事あり

- 最明寺 山之内より福源山禪興寺といふ園東禪院十刹の其一也
- 明月院 奉願の平時頼ふりてむり一七堂伽藍今廢ちあり
- 六國見 最明寺の末あり崩山の大覺禪師の法孫密室守藏和尚
- 瓶 奉願の上杉安房も意あり
- 淨智寺 明月院の十系其二七はちの上方といふ安房 上總 下總
- 甘露井 明月院のうへ海口のあり
- 十井の其一つ也

明月院の向ひあり鎌倉五山の第四之崩山の宋園大覺禪師
奉願の平時頼時也
淨智寺崩山塔の傍あり又門外左の路傍あり清水あり



圓覺寺
めぐり



瑞鹿山圓覺禪寺

山之内ふりり鎌倉五山の

寶冠釋迦佛

併殿小安八福士梵天帝釋

選佛場

併殿の西

方丈

併殿の東少ふりり

今又窟

併殿の西少ふりり

瑞鹿山

總門の額

開山塔

方丈の西山四町許ふりり

坐禪窟

併殿の上方ふりり

妙光池

方丈の

虎頭岩

妙光池の

洪鐘

鐘銘曰

鶴岡之北

富士之東有大圓覺

賢聖之跡

龍象龍範圍天地

銀鑲頭銅成

大法器啓迪

傳法空法王

神天景從

什寶佛牙舍利

高山什宝の第一

捨利記

卷之九

拈毫山

後宇多帝

創建

山と宋國の人

來朝

傳いえ言釋書

少

伽藍珍瓊子院

たり

殊勝の禪籠

刹

共轉住の号

東慶寺

松岡と号し東慶寺の南に禪宗比叡住職を開基し小室時宗の室秋田城の女ふりり

湯酸息苦

超越

湯聲震

寒中

重臣

千秋

從四位

上行相

詔

當寺住持

傳法宋沙門子曇謹銘

大光明寶殿

併殿の額

圓覺興聖禪寺

山門の額

白鷺池

山門の左右

宿龍池

併殿の上方

鹿巖

方丈の邊

虎頭岩

妙光池の

鐘銘曰

相摸州

瑞鹿山

圓覺興聖禪寺

寺鐘銘

鶴岡之北

富士之東

有大圓覺

為釋氏宮

恢廓

全功

鑄金

長鯨

吼月

幽谷

贊國

植德

旌忠

皇風

浩

皇帝

萬

大

檀

那

同

成

大

大

檀

那

同

成

大

大

檀

那

同

成

大

大

檀

那

同

秀朝公の懸女少く死秀森和尚とつゝえぬ年薙落り時八歳正保二年
二月七日入寂一申入骨灰の後石塔婆あり寺の額百二十貫文
長壽寺 延福の爲小建立を崩山々古先和尚

本尊釋尊 併に安んず又尊氏公の像ありむいり佛藍銅をとり
栗根郷あり初天台宗蘭溪入院後禪院とありをそぞ弥陀云々

常樂寺 小系泰時の奉創也
木曾塚 頼朝の塔とありしが父義仲栗津原少く亡び申は密小通れ也

鐵井 實檢の後小井井
松源寺地藏尊 鐵井のあり頼朝の頼朝の時無運新あり

窟不動尊 弘法大師の像といふ
春福寺 扇谷あり後倉五山のあり之を崩山ハ千光圓師兼西之原

本尊籠釋迦 唐の陳和卿が佛といへ籠小編く張るあり
實朝塔 善福寺の信あり窟中が一文許小く牡丹唐彩の彩繪多く

東光山英勝寺 巖谷あり北に大田道繼旧跡大田氏英勝院禪尼
念佛道場弘誓む其後水戸中納言頼房卿傳息女
諸堂の壯麗玲瓏とく寺宝種々あり畧之
本尊阿彌陀佛 運慶の作併に安んず左右の菩薩法然の像あり額ハ
寶珠殿と書して良恕法親王の書也
山門額 英勝寺と書け後水尾帝の宸翰之裏書云
寛永二十一年甲申年十一月日跡寫之云云
總門額 東光山と書け裏書云寛永三十年四月十一日
無障金剛二品親王良恕書之云云
鐘樓 内肉右の方あり鐘の銘あり林道春撰け
相陽鎌倉英勝寺鐘銘
扇谷靈區英勝精廬巧鑄法器新脫靴摸華樓
直架蒲牢高呼聲來耳往外圓中虛漁嵐成曉
湘烟向晴遍滿忍界透徹迷虛梵唄無倦德
不張令聞千歲日居月諸寬永九年五月十日
石盤 方丈のふあり澤菴宗彭銘也
其文たのふ

此	流	不	化	惟	暮	一	人	星
流	不	化	惟	暮	一	人	星	星
豐	孤	工	時	擁	陰	上	拱	北
水	兮	兮	兮	兮	兮	兮	兮	兮
游	物	風	山	其	暗	根	水	今
至	盡	拂	染	象	蒼	清	朝	東
今	蒙	兮	楓	今	等	兮	諸	前
繞	一	雲	二	在	梅	融	風	動
岨	得	盡	陽	午	雨	以	兮	兮
朔	五	空	沈	宮	連	客	物	相
方	兮	寒	兮	石	兮	維	從	後
化	其	月	一	為	陽	兮	山	靜
兮	數	涵	陰	陽	兮	洞	足	兮
千	充	兮	汎	兮	兮	江	潔	躬
茲	此	兮	上	兮	迷	雲	兮	兮
隆	源	兮	貯	兮	兮	兮	兮	兮
	深	兮	水	兮	兮	兮	兮	兮
	兮	兮	兮	兮	兮	兮	兮	兮

阿伴尼塔

英嶽寺塔地小の方なりは尼公の遺跡の辨論ありて其小
鎌倉一ツに所治の事小塔ありて其小塔の遺跡ありて其小

源氏山

英嶽寺の西の山なり八幡方身義家東夷征伐の時其小旗を
立置し今小旗竿の跡あり

泉井

泉谷あり鎌倉
十年の其一ツあり

綱引地蔵

浄光明寺の山中あり昔由比岐より奥又の綱引ありてより
甲と云は寺の平、長時の建立少く宗有八宗兼修也

夫拾地蔵

浄光明寺の境内慈恩院あり傳云源直義のち存せり
軍戦の時僧と遇し夫拾多く拾ひ甲と云

原高相塔

綱引地蔵の後山あり土人思性上人の塔なり
難く文字の成跡あり

扇井

扇谷あり十年の其一ツ也

海蔵寺

同所あり本寺は海蔵寺といふ山中あり毎夜見の位聲あり其地と
傳はれは法師の頭と傳ふは扇山の源義家大覺禪師の法嗣也

底脱井

海蔵寺の門あり傳云むう上校家の尼老禪して
い水汲及時投擲れあり

賊の女いよく桶は底ぬけてあたきくねる月も盛るぞ

十六年

海蔵寺の山中窟の内あり土人云
弘法の加持水也

景徳穿窟

化蔵坂あり傳云悪七番景徳穿窟捕へりて其窟あり
今其窟の中ありて穿と云ふは穴ありて其窟あり

假粧段

扇谷より西へり坂路なり一鎌倉の傾城町の曾家五房の御所なり
少は扇原原大分少は假粧段なり一柱ありて大坂の東に化蔵坂あり

鍛冶正宗宅

今小幡勝橋の町あり正宗が足利光貞應の以鎌倉より住む
あふ小幡勝橋と云ふなり

佛師運慶宅

正宗の西へ運慶の
佛師東の佛師也

巽荒神

今小幡の南あり今浄光明寺也
玉泉院の持也

人丸姫塚

巽荒神の東畠の中あり人丸姫の墓七番景徳が女也
長小幡あり

尊氏第蹟

人丸姫家の南の園あり尊氏第の
徳倉小三所あり

典禪寺

赤福寺の南あり扇山の奥州松海雲居禪師本願の朝倉筑後守が
名甚十房之父遊居の跡也

裁許橋

扇谷より川あり橋あり頼朝の在母の時此橋に
政所ありて裁許なり

佐々稻石洞

扇谷あり毎年二月初午日鎌倉中群衆を聚めりて
佐々稻石の口の方ありて名あり一説あり上野の外

隱里

千巻の外三浦女の之あり此小住也
扇谷とも云ふなり

鏡洗水

扇谷の窟中小あり福神ありて其水と云ふ
鎌倉五水の其一ツ也

天狗堂

扇谷あり昔愛宕洞ありて其堂あり
扇谷とも云ふなり

千葉常胤宅

今田圃とある

佐々目谷

滋養橋の西ありは谷小法然上人の墓

塔辻

七重石塔安依々目谷東の道傍小二所あり古代の跡は塔

小町口等ゆかり土人談云むし由井長者條をたき時忠の子

所ありあれぞ我子の骸と昔懸の為小落敷り

は塔依按まる小正慶建武のれ小糸高時亡び一時多くの

盛久頸座

塔の南にあり小糸高時亡び一時多くの

甘縄祠

奉幣の事懸瀧小糸高時

藤九郎盛長家

甘縄祠の東にあり東鑑小治承四年十二月氏衛頼朝初て

金糸瀬瀬川

土人稲瀬川といふ

真のつみさひはむしつれあまの勢川小糸高時

東海をわた勢川小糸高時の名は六月雨のよみ

あまのつみさひはむしつれあまの勢川小糸高時

さしはゆるあまの世川のたし海小湊は月れつそちうはく

まほふ波の志は海もゆるまぬあまの勢川の秋の夕暮

光則寺

大佛入り道のたふり小糸高時頼朝の信宿屋唐門光則入道

大佛

初瀬村は小糸高時大威山法浄泉寺といふ浄土宗光明寺

安ん堂

赤い堂あり又安ん堂あり長三丈八尺八寸八分

日朗上人土室

金吾等の日朗上人土室

山跡

山跡行時山といふ

大佛

大佛建立の事あり其時八丈のゆは

應安二年

九月三日大風徳倉大佛殿顛倒

十五日

洪水由比良殿揚り大佛堂破

代小

代小建長寺の元小大佛堂の崩山大素

中興

中興ありん

詳

ありん

家集

東海をわた勢川小糸高時の名は六月雨のよみ

あまのつみさひはむしつれあまの勢川小糸高時

さしはゆるあまの世川のたし海小湊は月れつそちうはく

まほふ波の志は海もゆるまぬあまの勢川の秋の夕暮

光則寺

大佛

安ん堂

日朗上人土室

山跡

大佛

應安二年

十五日

代小

中興

詳

一も同日の論
 あつめと其に
 より人みか
 西上人の徳と
 賞したるを
 げん一



西行上人の
 徳を賞する
 將軍の
 軍法を
 小僧の
 香爐を
 盆を
 鉢を
 のり



高若拙畫

七
 八

葛西谷 葛西谷の南の谷に地ふむ。東勝寺といふ禪院あり。小糸家代々の墳墓を築く高時。其外一門ありて亡。所之今も骸骨を露に出す事あり。

相模入道も東勝寺に於て後切の城入道に腹を切たり。其の腹を切らば、あれは見て堂上小座を烈する一門他家の人を害せしむる層と推肌脱々

て腹切もつり自頸を控落とも多し。思ひく此最期に侍特小由々後

摺見たり。中畧。惣其門衆を人共百八十三人我先少く復切て屋形火火

殺され猛火熾ん燃上り黒煙天と揺る。屋上小並居より多兵共

是は見て或は自復控切て炎の中を入る。或は父子兄弟を遠て重し

もあり血を流く大地も溢れ漫々して。焼のゆかれば戸の路も横て累

々たる郊原のゆかれば死骸を焼く。ゆかれば後小名は君ぬれば所て死

せる者惣く八百七十餘人。比外門衆恩顧の者僧俗男女は言は聞傳

定傳て泉下小恩報せり。人等小悲涙促せる遠國に半へて去る。比鎌倉中

松考つる都て子孫人の吟。此日何多日と云元弘三年五月廿日と申小平

家九代繁昌一時小滅亡して源氏多年に執權一朝小開する事を得たり

屏風山 實戒寺の東小つり屏風山と云

小富士 屏風山の傍に峯あり。小糸の社あり。神神小富士形の石を居後向

塔 大菩薩と傳を毎年六月廿日群衆

行 小町の西側妙隆寺小つり寺説云日親上人は此少く千物の丸を放

産女塔 同所大巧寺小つり日棟上人の産女の出立小遇人希は華の題

妙本寺 比企谷小つり日蓮上人の墓帯所。比企谷日親上人

本尊釋迦佛 日蓮上人豆洲左遷の時立像の釋迦佛は身も後小日親小

比企判官古趾 比企谷あり。比企判官は負其女。比企局は將軍頼家

田代觀音 本寺あり。観音坂赤巡礼所あり。三妻

裸地蔵 米町の西小つり延今ちといふ本寺地蔵の裸地蔵は女根り

補陀洛寺 比企谷の東小つり真言宗南向山といふ南山に文覺上人又頼朝の像を

本尊茶師佛 文覺の勅進帳の城より首尾破れ。比企谷の土人云


比企谷の東小つり真言宗南向山といふ南山に文覺上人又頼朝の像を

比企谷の東小つり真言宗南向山といふ南山に文覺上人又頼朝の像を

比企谷の東小つり真言宗南向山といふ南山に文覺上人又頼朝の像を

比企谷の東小つり真言宗南向山といふ南山に文覺上人又頼朝の像を



法橋中




光明寺

六四十四

天照山光明

鎮西六爪の因白旗流義あり

本堂記主禪師

自他の本像安んじ禪師の法然上人の孫尊聖光上人の弟子に初め良忠然り上人と号し石州の人の

弘安十年七月六日寂し年八十九記主禪師と謚す

阿弥陀堂

本堂の在りり本寺阿弥陀佛の運慶の作也

祈禱堂

石州の方小寺導大師安んじ祈禱の勅願今宝庫あり

方丈

運慶の作の祈禱堂の傍に在り

開山塔

本堂の傍に在りり記主禪師の石塔安んじ建す

天照山

後山の麓に在り開山の

記主水

記主水の上より後念の海眼下

藏王窟

隠れ天照山後花園帝の宸居の裏書す

山門

永享八年丙辰十二月十五日

岩導塚

懸門の外

小糸家墓

一門の傍に在り

それ高き初依々谷小なり後寺を移す本願の宗大守平純時建

立蓮美寺と跡一良忠上人と開山して後小経時蓋及ふりり光明寺

と改む良忠の弟子六人有り六爪と流小幡意心関東三箇白旗の寂也

本寺小して白旗流義之流小幡名此聲絶して松の風静小香煙梅

小争ひ出さる雲孤帯と佛堂孤めぐる真小廬山寺蓮社おも比せんや

六角井 其天十八里孤流りは井中ふあ

小壺警浦 飯橋の東小なり又小呼ぶ書は行渡り風奈の地

青山高砂 西百の里の波濤蒼天公浸し士峯遠小なり海小

公海上小舟とほ一盃酒與小糸一のり此茶三房義秀水鏡の圃

諸人懐かむを所ふ生る飯三喉張提舟船のあふ流り上り備座一同

新居園魔 由并決大寺居の興なり運慶の他應永大乱亡魂吊ん為り

小感一と声と上りてを

小感一と声と上りてを

小感一と声と上りてを

小感一と声と上りてを

梶原第

五大堂の山際へ梶原新時が宅地

頼煥弥陀

信小馬の道南の南基一過上人藤原山光弱寺と

梶原太刀洗水

梶原太刀洗水の跡

朝比奈切通

朝比奈切通の跡

侍従川

侍従川の跡

六浦川

六浦川の跡

金龍院

金龍院の跡

石

石の跡

瀬戸明神

瀬戸明神の跡

祭神大山積令

祭神大山積令の跡

瀬戸辨天

瀬戸辨天の跡

福石

福石の跡

瀬戸橋

瀬戸橋の跡

照手松

照手松の跡

金澤

金澤の跡

兼好齋蹟

兼好齋蹟の跡

洲寄

洲寄の跡

梶原新時が宅地... 頼煥弥陀... 梶原太刀洗水の跡... 朝比奈切通の跡... 侍従川の跡... 六浦川の跡... 金龍院の跡... 石の跡... 瀬戸明神の跡... 祭神大山積令の跡... 瀬戸辨天の跡... 福石の跡... 瀬戸橋の跡... 照手松の跡... 金澤の跡... 兼好齋蹟の跡... 洲寄の跡

金澤山禪名寺

金沢山禪名寺 坊舎五宇

本堂 弥勒佛

本堂の西蓮池の傍にあり

弁財天祠

本堂の西蓮池の傍にあり

金澤文庫古蹟

北條敏俊守平顯時より小文庫に置かれしを畧之

愛染堂

本堂の西にあり

後樓

本堂の西にあり

王帳

修文講武餘遣人來見舊藏書

牙籤

映日窺蚪斗標快乘晴走盡爽

圮上

一編看不足郵侯三万欲何如

照心

古教君家三有收在胸中歷五車

青葉楓

あとのくま 堂の東にあり 相々後舎小あり

西湖梅 今ハ枯クアリ 櫻梅 今ハ枯クアリ 晉賢象 今ハ枯クアリ 美石 今ハ枯クアリ 所所谷 今ハ枯クアリ 北條顯時塔 今ハ枯クアリ 拈高ちの金櫻花古刹 今ハ枯クアリ 閑基の審海和尚 今ハ枯クアリ 附々伽藍 今ハ枯クアリ 封一 只寂寞なる古名刹あり

いふては... 山小... 今ハ枯クアリ

西湖梅 今ハ枯クアリ

櫻梅 今ハ枯クアリ

晉賢象 今ハ枯クアリ

美石 今ハ枯クアリ

所所谷 今ハ枯クアリ

北條顯時塔 今ハ枯クアリ

拈高ちの金櫻花古刹 今ハ枯クアリ

閑基の審海和尚 今ハ枯クアリ

附々伽藍 今ハ枯クアリ

封一 只寂寞なる古名刹あり

閑基の審海和尚 今ハ枯クアリ

附々伽藍 今ハ枯クアリ

封一 只寂寞なる古名刹あり

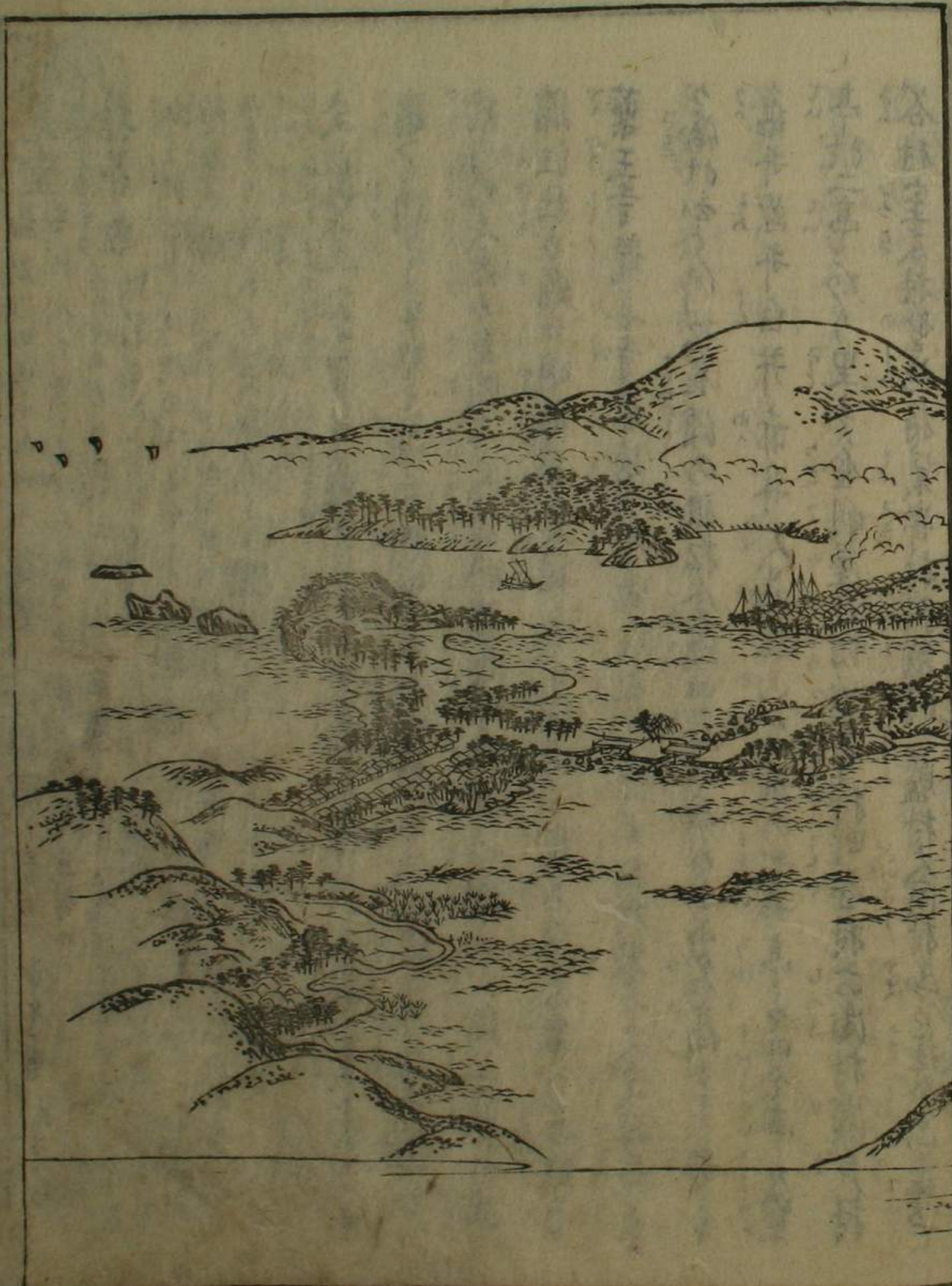
閑基の審海和尚 今ハ枯クアリ

附々伽藍 今ハ枯クアリ

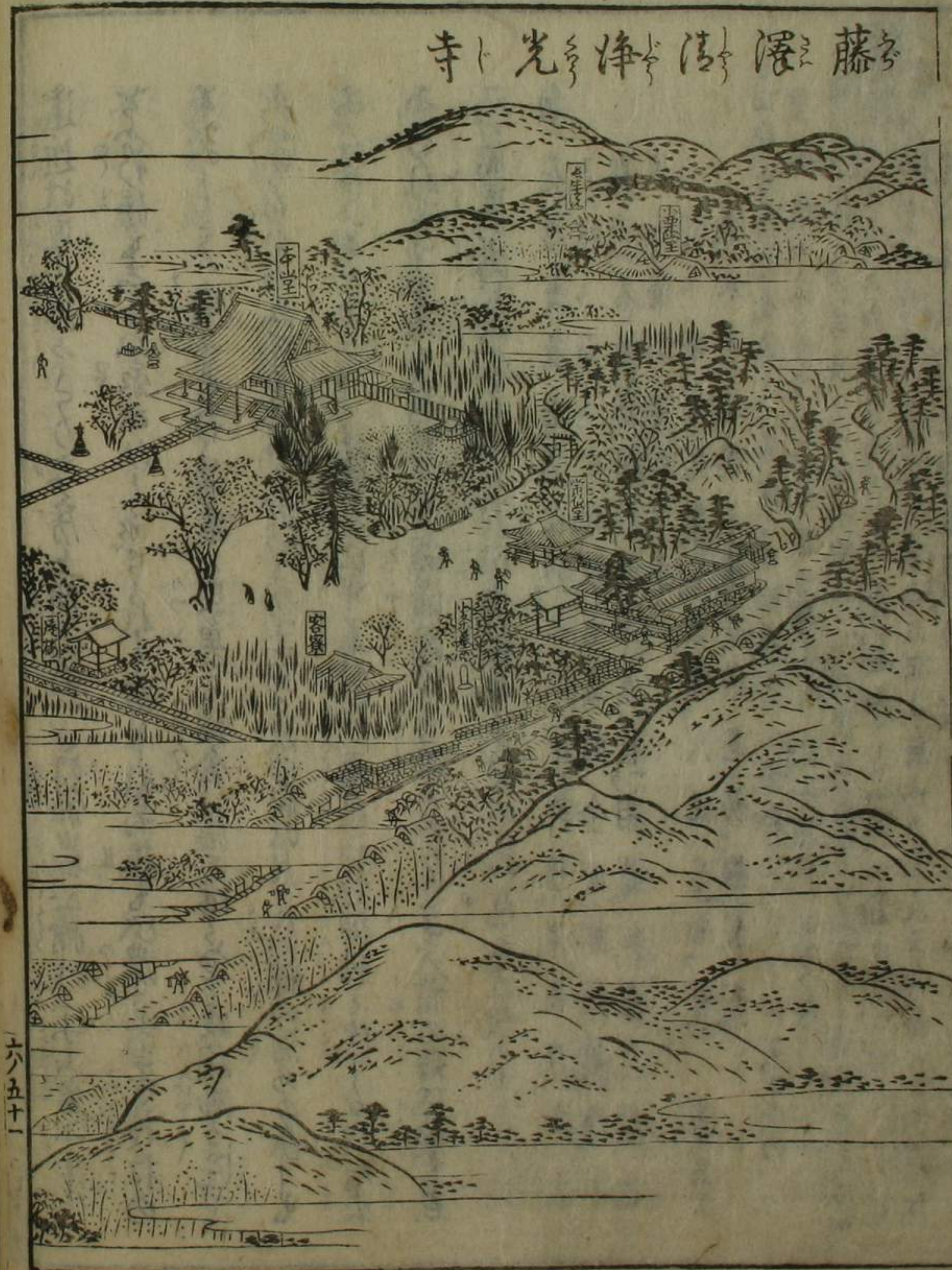
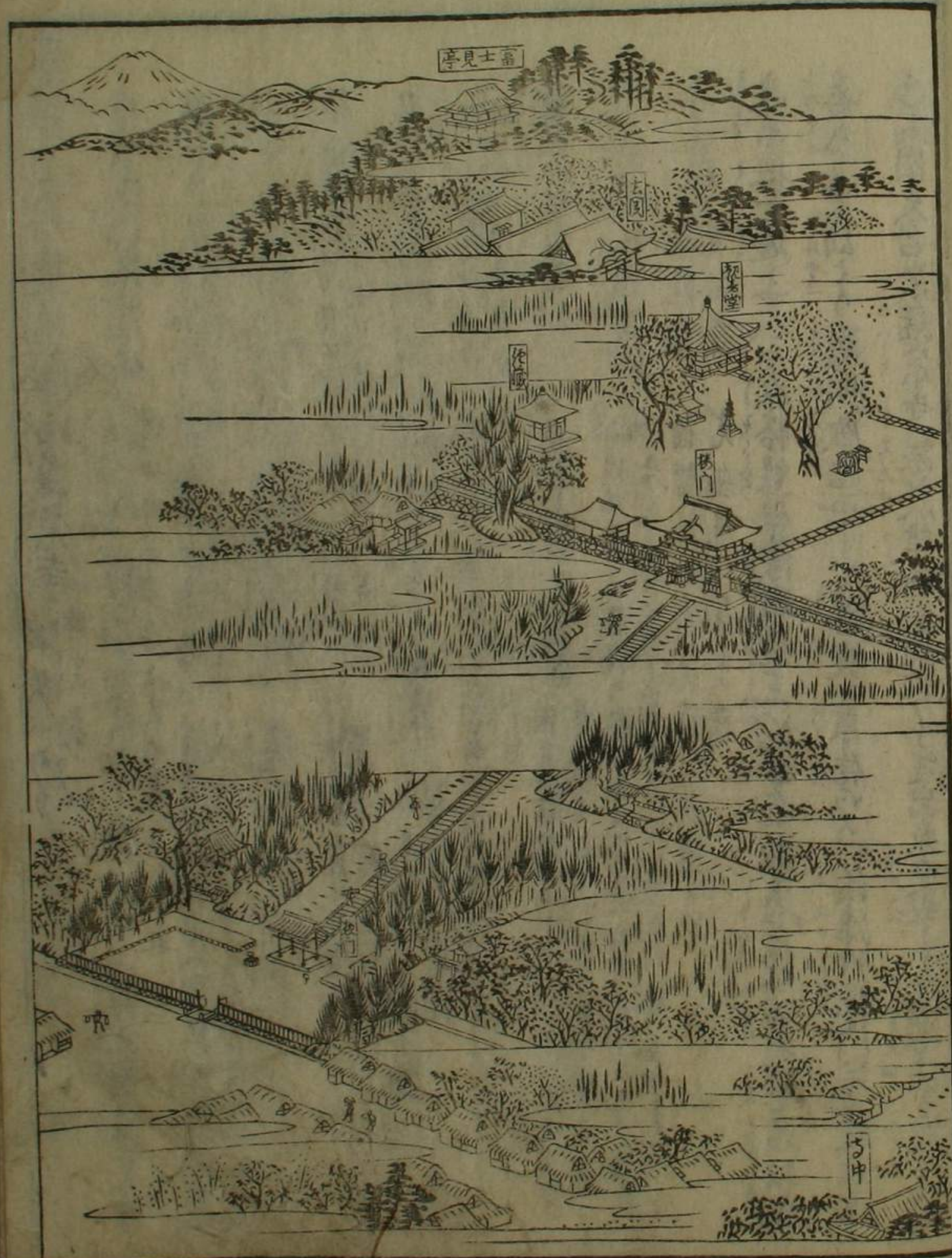
封一 只寂寞なる古名刹あり

閑基の審海和尚 今ハ枯クアリ

附々伽藍 今ハ枯クアリ



金澤
能見堂
榎茅松



郷尊氏の兵威小巡り宮方小遣り遊小宮宮遊り八世後船上人の所遊り
成申延文五年延文五年より應安元年まで九年は同慶寺山所在山應安二年より
永和二年まで八年は同揚州兵庫津真光寺小所住職永和三年に至る
と八年は同羽州山形光寺小止錫至徳二より二女の同甲府一蓮寺小所
止後嘉慶元年二月廿六日より海内遊りし時宗十二代目松相續し
尊親上人と號し諸國修り十四箇年干時應永三年秋上洛すり百二代
後小松院御宇皇胤の由緒小所の卷内有く至徳の御代小所住り南
朝の所裔流され後醍醐天皇の宸叙養小所居後醍醐小所宮隨心院
尊果法親より遊り尊親上人小所授興し由致りし時宗十三世上人
より已後代々綿旨頂戴卷内の格式小所所埋國の内之皇同少龍顏
成りなれり尊親法親王應永四年は去國國修り小所後小松院被
達 殿御足利之代の將軍義満公へ勅令有く高代遊り上人の南朝即位
の皇子たるより順國の事等爾がに於國を守護人止宿支駄の煩多

十六ノ五十三

又足利四代將軍義持より遊り十四世の老堂上人回國所教書其文云
法傳光寺道場遊り金光寺遊時元性及人文馬樂諸國上人の事
國の波し以押し判形無煩之勤過り有る上付國々守護人にも
於遠犯りし所より然れ進可也罪科し中所に付やの執達如件
應永廿二年四月二日
官領 少孫判
書同文あり足利將軍代々賜り其後織田信長豊太閣等の所教書派
の月々遊り干二空滿悟上人法流依縁り後國小多村より所より
高寺へ歸國の時秀老公より下り書其文云
後上人所歸國に東傳馬扁送等無失儀
有り能走者や仍如件
天正十七年九月七日
直江義隆 判
其の外 御高家より所代々所事多し又徳川徳山孫有親公の
所願書高山の付至り
尊十二世尊親法親王化上人より高井十七世宗凡と題し又四十二世南
門上人僧正和州吉野山小遊り後醍醐帝は遠忌三百五十回改修り追福の
茗の下埋れぬ名ひみり山より高代君がこり

外國とあつたはれたるはたかひのつとてん
西川嘉長

とつたあつたはれたるはたかひのつとてん
持り上人

宗祖一過上人より今幸三無までも香く萬國を順とて祈替提の経書

一先申の事奉月久く沈小五百餘歳小建の末の凡卑三度のは味瓜

甘んド云心四條とあつた心帯併のは報とて先遊りのつたの

奇特出現一の慈悲文権現の平並告の神札授けの事申己身の

弥陀唯身の浄土の通符契のつとて

小栗堂 長はた場の赤を町小栗の子院の中より長生院とて小栗備重像
三

又儀小栗拾人 什宝 鬼塵靈 崇寧通宝 古錢照母の赤書 天狗爪
全

小栗の事年久しく人口小贈文とて正説伝安むの事紙云人皇

百二代称光院の清平將軍足利義量卿の時應永三十年の事常陸國の

住人小栗孫太房備重とて者謀叛の突えあり後倉官領の下知小栗

先を信源持氏とて返治の名義倉出陣して結城に到る八月二日より小

栗の城を攻め小栗も去出とて方とて送倉幣荒とて出とて小栗

積多れを防戦あり小栗の城を襲く方とて送倉幣荒とて出とて小栗

在といふ其子小栗小次房の思んぐ因事ありなるが所の時相州権現堂

とつたあつたはれたるはたかひのつとてん
云々

止着の恨人の常加有徳の人とて隨身の財宝多し家計多し云々

いふとんとてふまきの賊云討入奪ひて小栗も去出とて方とて送倉

を飲せとて一交小栗とてよとては後意竟の計とて用意とて小栗

の俵とてとてあつたあつたはれたるはたかひのつとてん
酒

とて照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗

の事照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗

とて照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗

とて照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗

とて照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗

とて照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗

とて照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗

とて照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗

とて照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗

とて照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗

とて照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗

とて照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗

とて照天とてとて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗とて小栗



蒲生頭魚


小栗小次郎の線余
 権柄培ちて強血
 矢の筋も毒酒と
 殺すくさくさ柱石
 野のうらぶ樹もて
 花散みゆひ出
 竹林の世馬小
 急着の道場へ
 馳入危きの程を
 逃れろくおと
 馬上の達人五
 しく王座が
 錦旗尻が
 惜みの涙も
 あらた



上八十五

神奈川 駒の
 南生 浅間神社
 ありあり
 下の人穴と
 ありあり



二ノ五十六

人穴の
 奥子輸の
 宮殿
 あり日本
 の
 桃花源
 あり

江戸
 蕙斎政美
 画



三ノ七

相模 程谷まで武里九町 後金葉花の時に村小町といふ所あり海道條大畧
 南小川の方より川くく江戸小宿中川の町端れ小者田舎といふ
 戸塚 江戸の生後金葉道と鶴岡へ武里長谷懸をへ武里半
 武蔵

武蔵相模の國塚 後本村といふ所の方小
 池蓋堂あり

程谷 神奈川まで武里九町むくく程谷新町惟子さく
 三宿あり一宿慶長二年一縣とありはれり
 蔵 金沢屋倉へり道筋右の方小あり金沢能恩堂
 武蔵

芝生村窟 芝生村の方小後間洞りり山腹小窟りり
 土人遊んでふとの穴といふ
 武蔵 川崎まで二里半武蔵の船着小して蔵舎あり多し繁昌の地也
 神奈川郡とく風流の傍地ふして申酉の方小富士山より右の方
 海邊小生寺りり本教十二天と云ふ縮毛弁天洞あり仲と
 本牧の沖といふ又縣中細細推現洞然燈推現洞あり

又賦の小端小浦考ちといふりり本寺正觀寺浦考が守伴といふ
 長法寺八分古の真言宗今浄土宗とあり寺説云むく浦考が
 龍宮といふ海りり時親の靈魂依りてんといふ東の方へささへ
 箱根山あり玉の箱とあり老翁とあり此の所もあり今
 西蓮寺といふ又竜燈籠といふもりり

川寄 武 武川中より二里半ありり南井町許小遠尾村といふりり
 蔵 武川中より二里半ありり南井町許小遠尾村といふりり
 堂内ふ入く通敷也

大師河原
平向寺

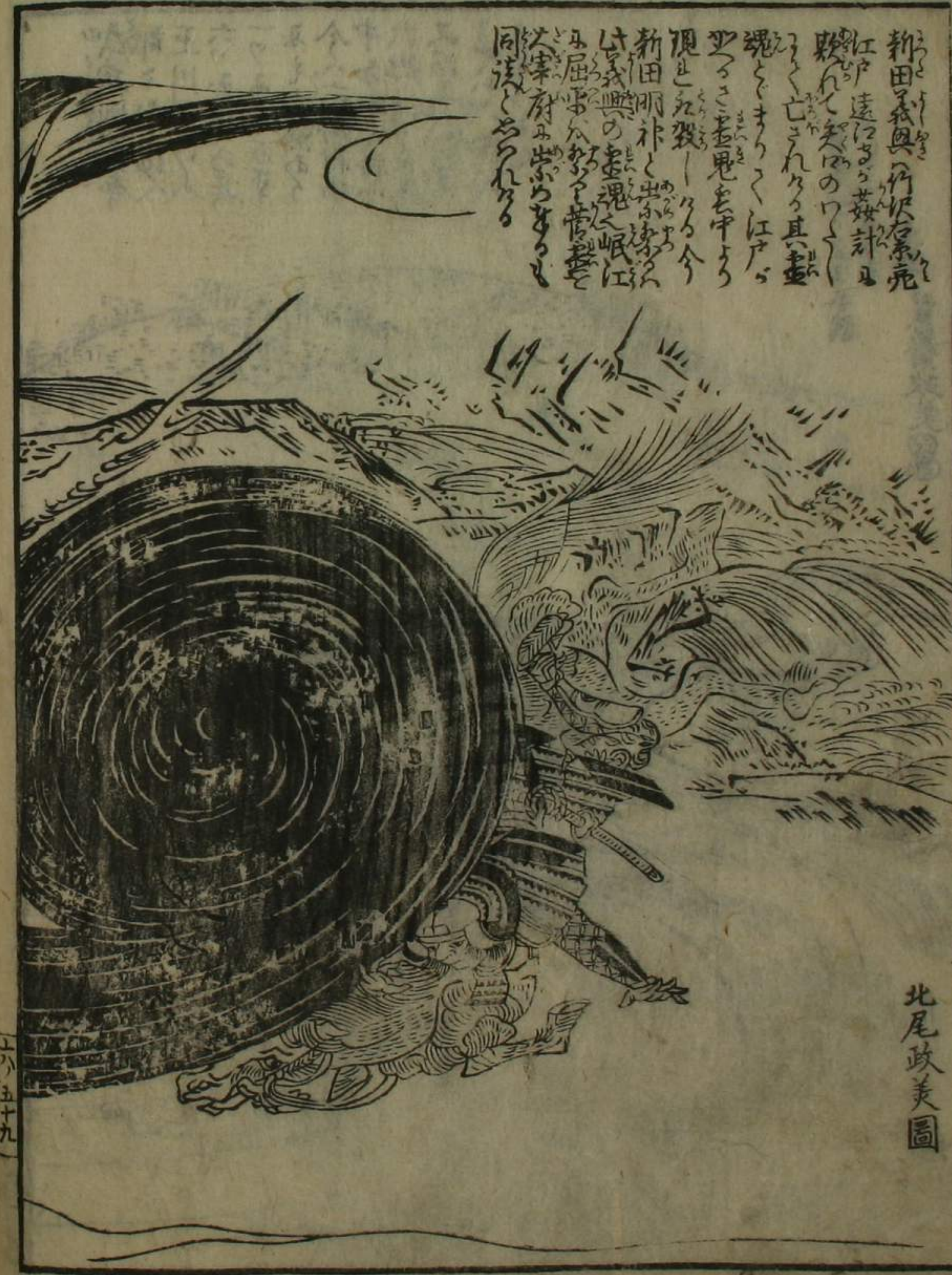


後滴漢歌處生
 江長万里與天平
 波向一望十帆影
 羊入春風蘆岸清
 大師河原
 釋隆圓

春泉寫



新田義興
 火や
 玉川の
 舟を
 舟を
 舟を



新田義興
 江戸遠に
 戦死す
 魂を
 守る
 現に
 新田明
 義興の
 屈辱
 同族

北尾政美圖

大師の原平間寺

武州橋脚郡川寄郷大原村小あり真言宗新義

本尊弘法大師像

別当金剛山金成院と長五寸堂内小愛深明王不動尊弘法大師像

近年新小隆と偽て堂ふふかく... 高僧ありて我日本有縁の地... 弘法大師の御影ありて... 弘法大師の御影ありて... 弘法大師の御影ありて...

新田明神祠

矢口村小あり六郷より十五町許西の方之新田元盛依義

新田元中將義貞の二男小元盛依義貞中て器量為常勝れ... 勇武畧る各將つり父義貞死の後も爰かよ中め合戦つり... 鎌倉公頼やう一安へれい鎌倉公頼足利基氏つりも一て討む...

このひんをみて江戸は遠江に望まぬ義興の味方と成て種々の謀略を
延元三年十月十日矢口の渡りて舟に座をうがら鑿とて必死を謀興
一族十三人密に渡り時鑿にぬき船を沈めたり具一ゆひ井弾に
義興孤宙少く上をれが義興大を聲して日本一の不道者竹並ぬ
口惜さす牙を噛自害してそのあ屑と成ふたり江戸竹は若小思
賞ふれり其後江戸遠江も本國に帰るやては矢口の渡りて到り附り義
興の怨毒をうられしとて唐侯ののく射るといへり山は震動し黒雲
一村江戸の首の上を落るといへり江戸の馬をり逆ふるるるる
童を流るけあふ溺るまことして終らぬ死せぬ是のころは入
間川の土家三百餘宇一時小妖燼と成義興の封れ矢口の渡り小敷
々々お出くゆき人々を悩むる向近隣の村老衆りて義興の亡魂に
社の神小出あらは新田大明神とてやまといふこの祭禮今ふとい
はとどろけぬるるるる成りし事あり

玉川辨天宮

六郷川東端羽田村ふあり別名龍王院は地海侯の
別所ふりしに江戸よりこれに海中の傳といふ

八幡宮

八幡隊村ふりしは別名生土神といふ例祭六月十五日神樂派
船より玉川に渡り別名宝珠院

大森

村の名といふは別名中散の敷店りひりまき栗細工の
名

長栄山本門寺

荏原郡千束郷池上村あり日蓮宗
塔頭三十八宇

存尊釋迦佛

運慶の他 祖師堂
祖師日蓮上人の像が安んじあり
時宗上人祖師存尊の時後他

為ちの高祖日蓮上人の関基を往昔上人房州小湊よりあふ来り番匠
宇在處尉宗仲が家より法義経派脱て宗意派弘通しり時宗子
達以發く宣ふ派流ふ元生利異化縁満りて弘安三年十月十三日遷化
しゆ宗宗仲上人の寺より家派流りて寺とせり今寺中社内六坊
あり之當山の封境巍々として五重塔題目堂三王門惣門若願の光悦の
寺之其外七面宿鬼子母神妙見骨堂宝藏祖師の御塔御碑石祖師
腰掛松千束池の長三町五横五十間あり此地の高祖遷化の古跡とて一宗の名利之
什宝。同 念珠一連。同 消息數通。同 肉付齒。日蓮自筆帳

大源河系
大森等
遠騎の士

唐の聲
石百里
支考



惠齊政美画

大森

大森



六六二

芒川蘭寄

川崎より下川までの旧名あり

万葉 芒川のわらわのわらわの金鶴のみはくやまら津坂のゆらん

白波の芒川蘭寄の原松のわらわのわらわのわらわのわらわ

紀行 芦原のわらわのわらわのわらわのわらわのわらわのわらわ

名産芒川蘭海苔

大森より下川までの旧名あり

海苔と秋の彼岸より始りて其の彼岸小笠原霜月臘月をく寒気

凜冽なる附取と最上とを採りて小舟小積沖の方十町

許りるひの井町又一里餘も出て狼牙棒の海産小穴と極ての採

取揚るふまふれ松口といふ満潮小海苔られ小纏ふ干汐の附分ふ

液と折々歩行せし出ゆさぬと船ゆく通其海苔松籠ふ入持帰

原名とて流流一塵を撰て板の上より庵下張りの細密小敲く

我れく藤の簀紙と漉すふ流流一庭ふ双干乾一疊重て浅州

町の海苔同屋より賣りて其の芒川蘭海苔といふをくを浅州海苔や

つらつら海苔も海藻のわらわのわらわのわらわのわらわ

鈴杜八幡宮

例祭八月十五日社内小鈴石といふあり撃の鈴の音あり

神室より未社五茶箱あり大園主命 櫻田彦命 多助元 一徳豆神

又皇徳祠小六茶 天満神 鹿島 粟飯 命 菊理姫命 書白聖

王石石軍等 飯あり

社司宮田氏守り

磯馴松 神本より

鳥石 神社の傍より大サ云天鏡

石の色よく鳥形黒漆のあり

石のた肩小碑あり南郭子鏡

書ハ古篆あり鳥石葛辰鏡

石前小聯ありたのふ

徳降巻海鏡森凡

昭和元年八月 藤定福

右ハ梅小路三位参議定福卿



兩院一品之皇神
典仁親王

吹きたる
中へ
たふさふさ
よる
あつ

拾光
世中に
あつた
心か
兼威



御殿山
天王社

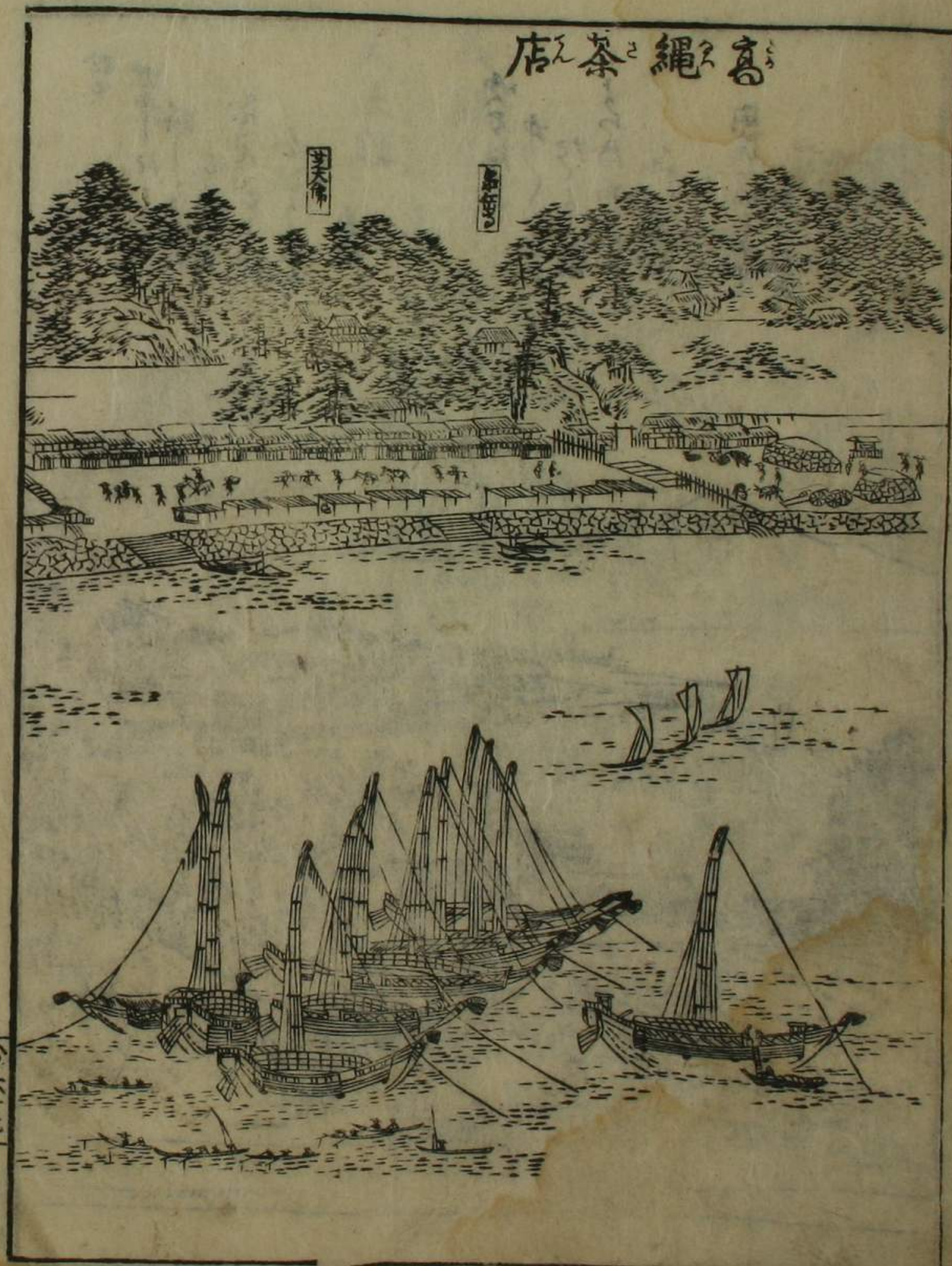


六ノ六十六

西美馬



政美画



六ノ六十七

二田八幡宮



六ノ六十九

ビクナ

礼小舟

志乃屋

放生舎

松本堂



慈濟政美

芝海
漁舟

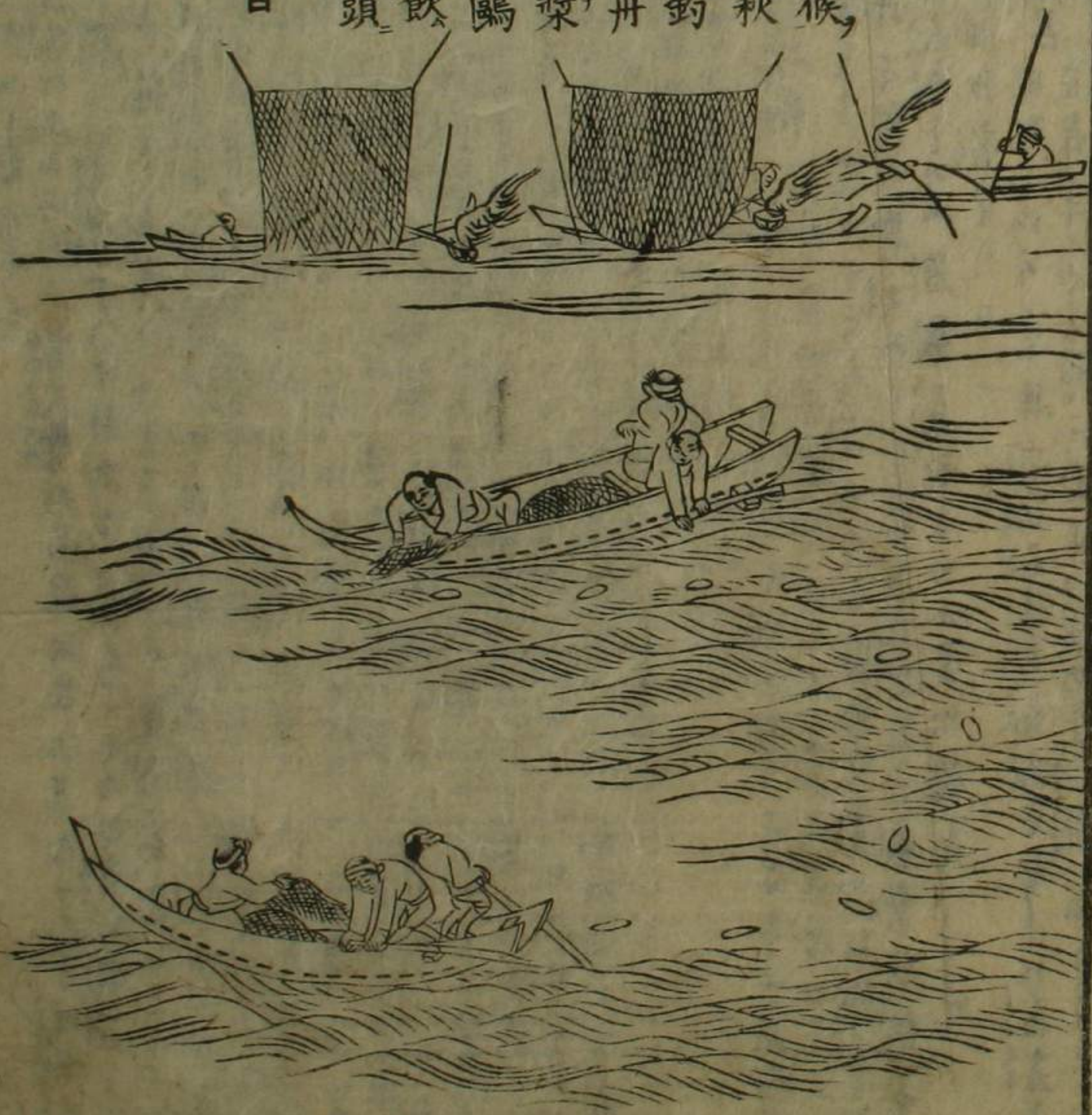


北尾萬齊畫

六ノ七下

不慕功名萬戶侯，
一絲牽動海天秋。
長竿子彎如釣，
短簑衣小似舟。
搖動兩三聲，
驚回四五個沙鷗。
得魚沽酒江邊飲，
醉卧蘆花雪枕頭。

李白



六ノ七下

八山 高嶺のありむりむり大日堂あり

芝大佛 高嶺の上あり五智大佛の本像なり昔は寛永十二年但唱本食の

師小折りて備へしなり十五丈ありて相傳本食の文あり

て信濃國檀特山に百回響り念佛三昧の得しむりひの

三尊の相傳なり其形度大なりて虚空界に満ちて又

少真の海にくみりつて半小の海にありて大併五

王も同能小なり強勢の威とありて外境にありて

解法の実なるなりとありて十の境にありて心

まればありて花さくまの指ありて風ふさそりれ

泉岳寺 高嶺の上あり曹洞宗 庵基の白菴宗 和尚

本尊釋迦佛 高嶺の中古の布臺あり正保年中此地に

云田八幡宮 田町あり系神男山石法あり

十五日隔年小祭りと勤むる小法に細あり

観音 東ふりてあり所見え

魚籃観音 本尊観音の持し右小魚あり入る

西應寺 庵基明賢上人應安元年造立

本尊の弥勒佛 庵基明賢上人の持し十六世存問

一百餘人の心化ありて宗風の実際なり

道灌城蹟 西の窪に石居ありて

熊谷城山 同所土城ありて

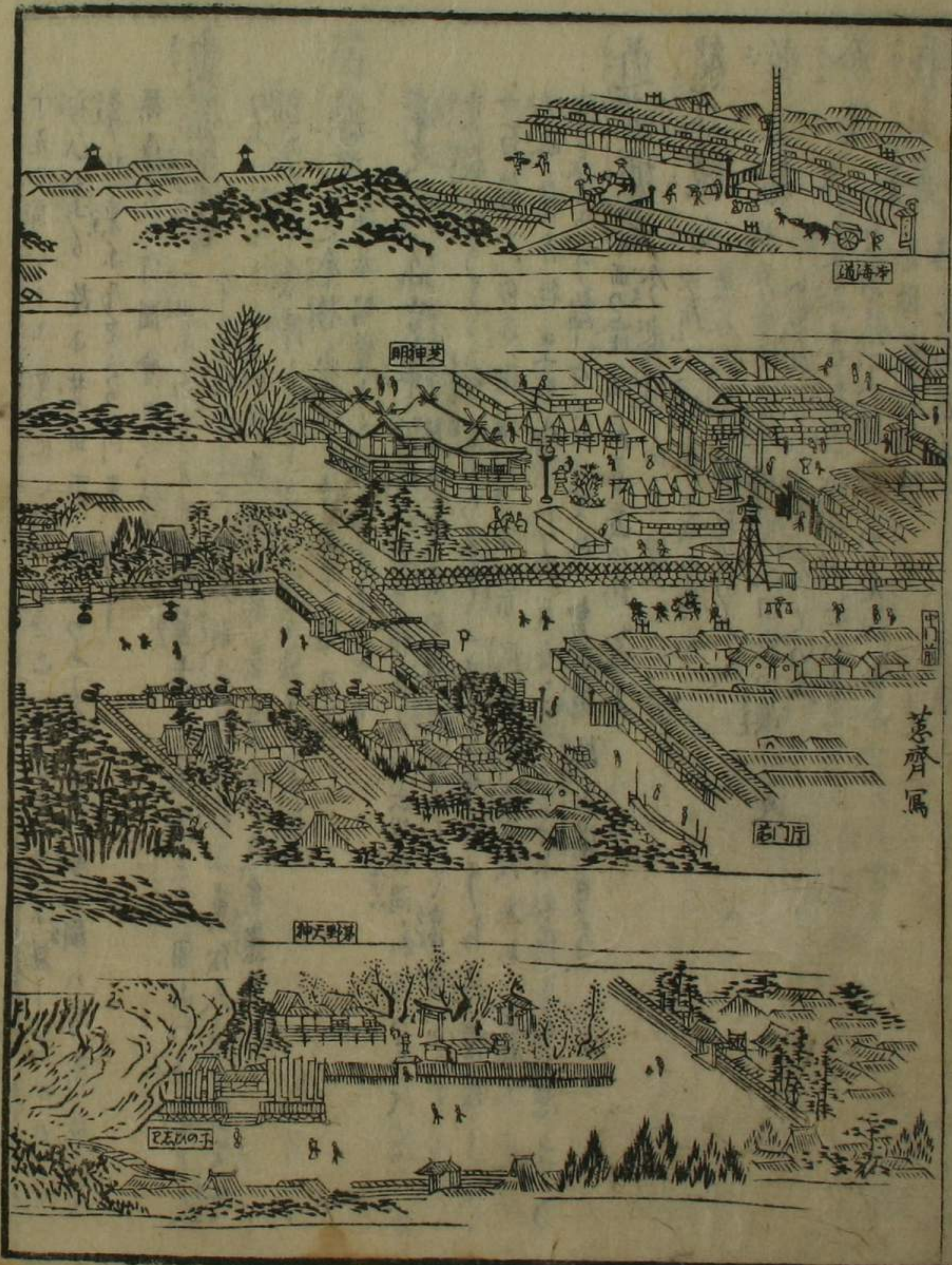
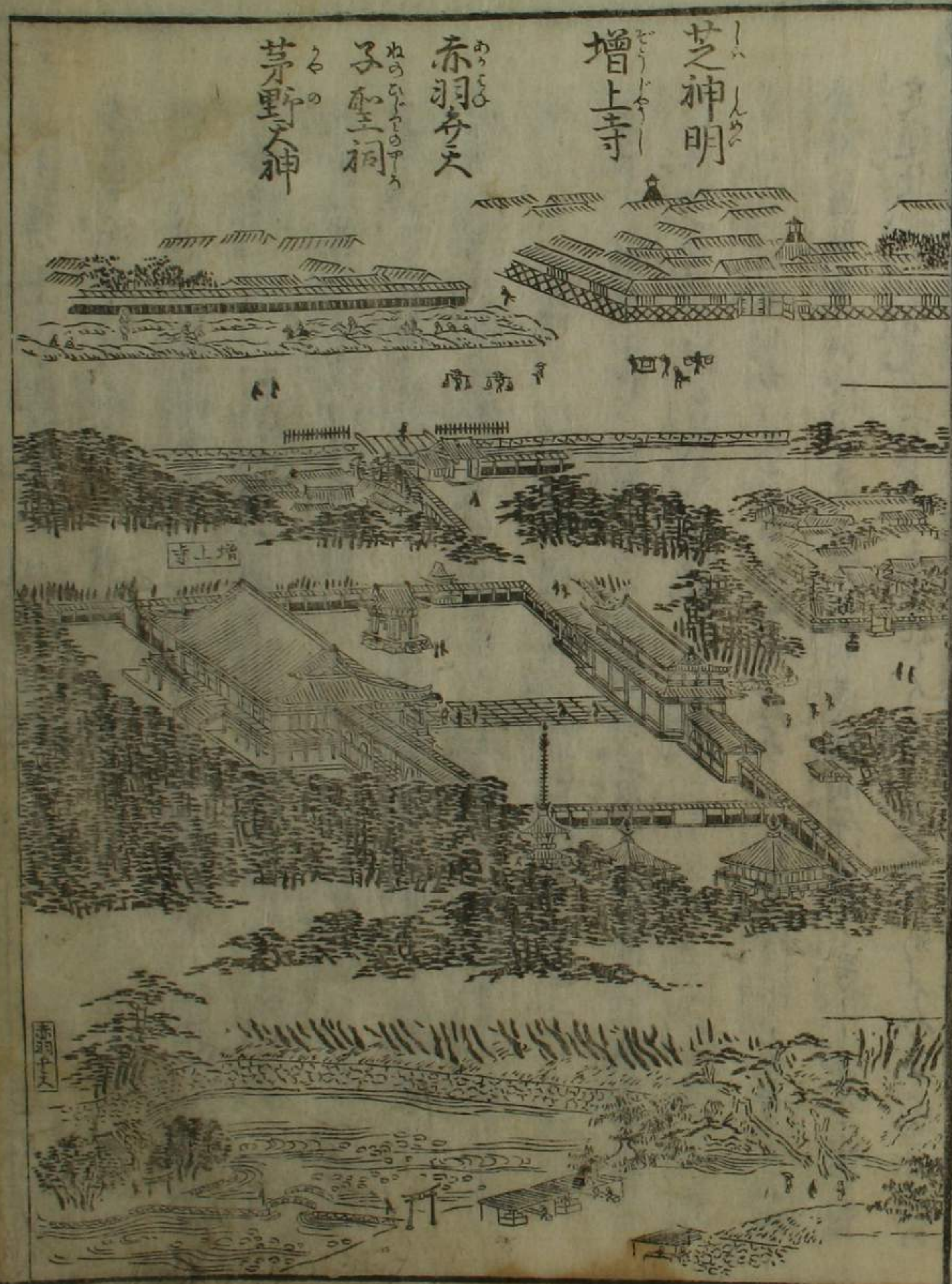
雑魚場 芝の海傍の渾師ありて

合海山 愛宕をもちの山あり

長南寄 原助橋の下流

海あり

芝神明
 増上寺
 赤羽大
 子三祠
 茅野大神



六十七二

ヒグチ

三 縁山増上寺廣度院東叡林

本尊の弥勒佛長三尺八寸五分

當山の開基は總州千葉女の末裔として源空上人七世の嫡流
西蓮社了譽上人の高才大蓮社西譽聖聰上人と號する淨土

念佛の宗風は學びて之心一乃窓のあきらみ念四條の月夜もて
のやび半理俱れけりの中は実報受用の花伝録

武州江府貝塚の靈光明ち住せし舊地は今報後等と稱する所
ありて其頃を人皇二百一代後小松院院御宇至徳二年この

丑の夏光明寺おけり論義あり讚題を尊師大師の四帖の疏も長時起
行果極甚提との釈文之西譽上人彼化して所化の輩向者答者

馬小法門の扉はち先光明ち住せし舊地は今報後等と稱する所
金剛の血脈さけはさ才二世の明蓮社問作上人と号し才二世の

定蓮社聖觀を尊上人と號する年茶をふりて才十二代の
一六七十三

寺職然化の貞蓮社源譽上人と号しは増上寺中興之官家師檀乃

台令りて御戒師と成血脈相傳りて上人遷化の慶長十五年
ふして益々普光觀智國師と賜ふは時ふあつて易り法門の行運

たち生れおを時機す相應して二天四海宗凡小歸する身一その
かみふえりて彼化の一代の法藏と胸ふたえ所化の十二世教文眼

ふりて學道はさあ智極深みりて法法利生はあつて法々れはあ寺の
院辨の慶夜院ともあつて寺名も御靈舎りての後の山岡とあふ

所化寮連綿して山門魏々として羅如文殊普賢十六羅漢の像は
安ん安國殿黒本を南山堂鎮守の慈燈之所飯舎天神をふ堂終藏

金鼓を初念佛堂極樂橋鷹所蓮池の奉堂のうは柳の井を
其小の方あり糸櫻曼陀羅石赤産の松系山産子と細るり観智

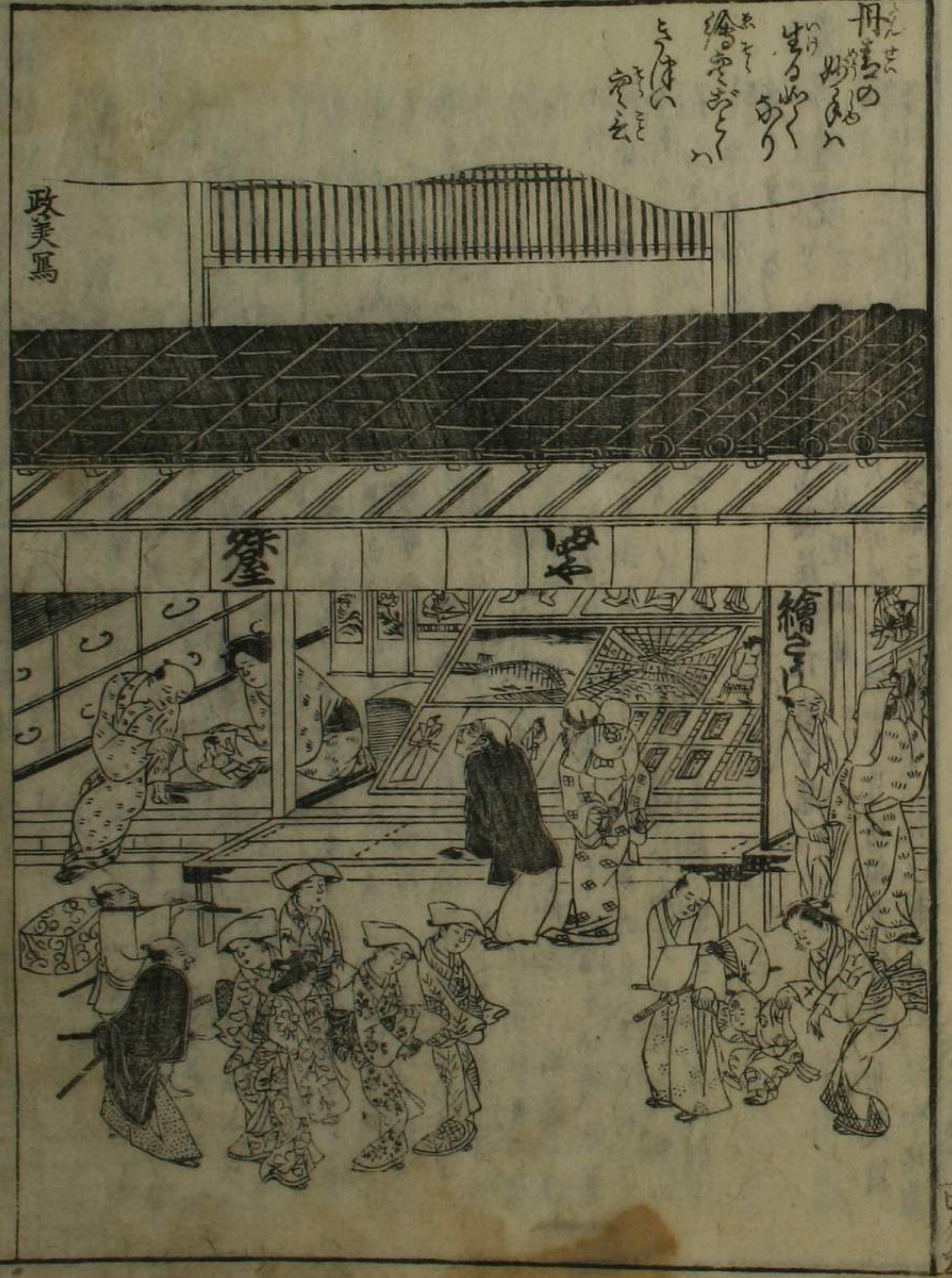
院あり火清地蔵の花岳院も安ん一文字席は五十傍模本扇席二十八傍模側席
六十傍都て大鬼手縁とい實靈靈山の會上美金公布たる給孤園も此せんや

画原史星
牛楊子...
移め...
江戸...
新...
土産...
賞...
一...
...
...
...



五十七四

丹...
...
...
...
...



政美馬

ヒ...

飯倉神明宮

旧名山比谷と云ふ今芝神明と改め別當金剛院
神主 西東氏 例 九月十六日

祭神 天照大神

社傳云 一條院 宇寬弘二年九月十六日小
津神幣并大牙一正比地不天降りたり

人々ちかき一之あり所ふりて
常陸國鹿嶋の地不降降一
これ比地不跡 成るん
繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁 繁
神領も廢一 荒蕪小及よ天正中
神領も廢一 荒蕪小及よ天正中
平天下の御折橋

愛宕権現

芝小あり別當圓福教院 眞言宗
本師愛宕山権現同神

將軍地藏尊

行基大士の他社頭小大房坊洞大師堂 并天洞
本社六前二王門 待堂 地主縮多社 延令地藏

石階の下ふりり石階上ハ十八段と云

杯愛宕山と云 本師朝日峯白雲寺小准下て神躰ハ伊弉册尊

迎具突智命多ふれと火伏の神と稱ふ本地主將軍地藏尊

修羅園靜の眩志依依伏一 左平安寧守護加忍辱慈然の身

府の地不台嶺然の御勸修たり其威徳つりて東海

靜盪あをば 盪盪日々ふわきた多れが地人間断多殊あ花地風

水秋の月小葉店の湯多あり山吹喜撰松薫らせりり豆葉ま茶

香葉賣茶婢まで本師の祇園香羽の風流と云ふ

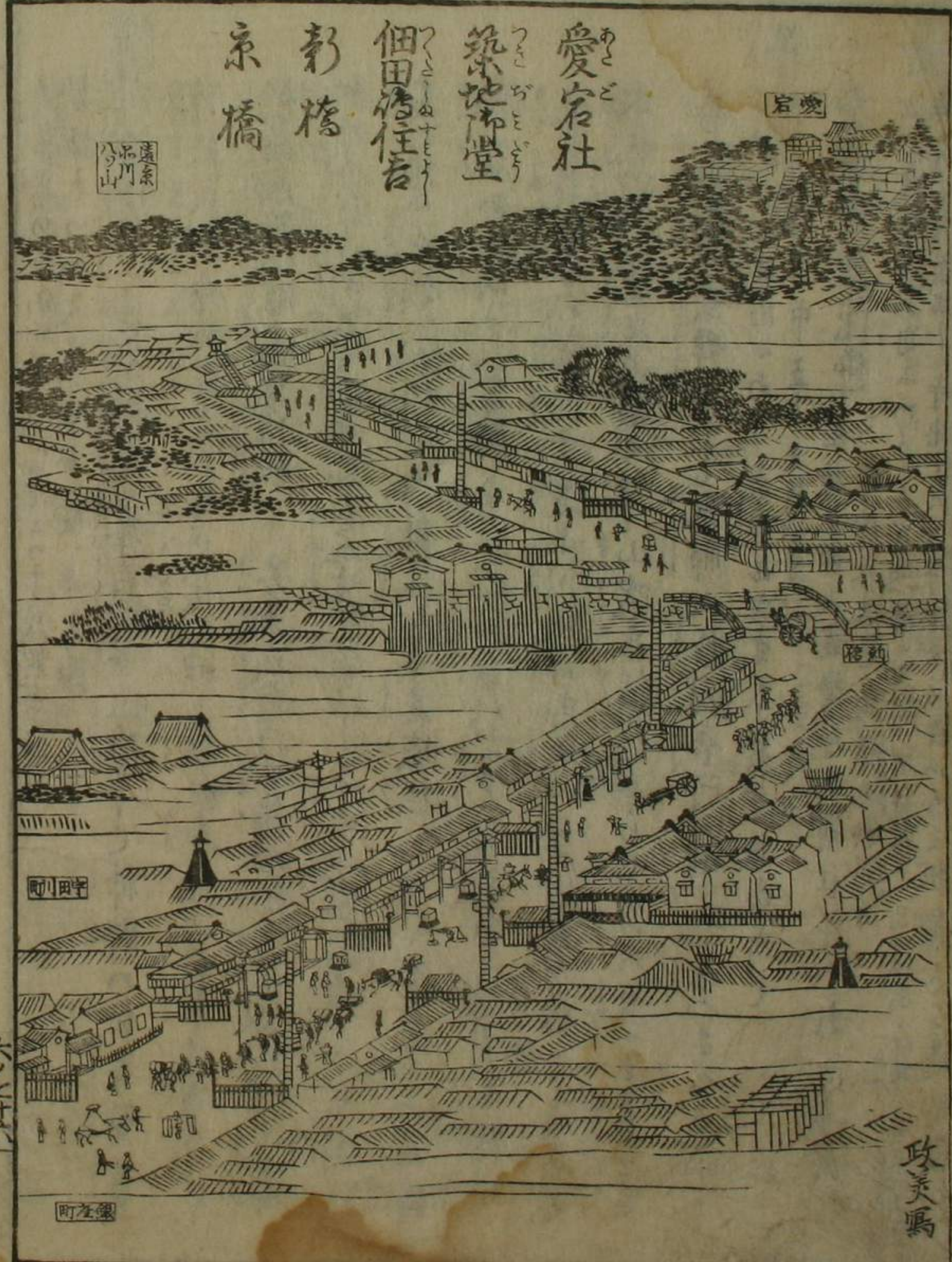
築比御堂

築比あり本師西六系本領寺論番所

本尊阿彌陀佛

又聖徳太子七高僧の御祈り

初は依る御の由ふりり明曆年中 回祿の災已後あは後なる干渉の
海多り 築比出 寺地と云 近幸御堂再兵りりて社殿と云 道場と云



愛宕社
 築地堂
 佃田住吉
 新橋
 京橋

愛宕山

岩愛

築地堂
 西寺
 浄土

町田宇

六七八六

町左衛門

政美馬

日本橋

東都
葛齋政美圖



富士山



六八七

東
日本橋

慈寶珠高欄橋長廿八間江戶町中の中央より行程
百式拾四里半拾五町驛宿五十二次これと東海道

け橋上四方時より風色真妙なり北小浜系東殿山南富士山我々
峯へ登る小池へ入るの海と此名まで西の方の御城山巍然と
東も海はばらちくけり舟もさうふんころ橋上の人征馬の
馬も多橋下やと真帆旗船救百艘漕つとじて日毎小市公たの聲
真小三條九百城隈小簾萬戸千門平且小開くとけ色の半多
旅人乃りこころふとかな道ありとありと一燈の赤 右大尾

東海道名所圖會卷之六 大尾

東海道名所圖會跋



予羊之皮不如一狐之裘示君
一弓一矢一矢重十斤見是謂國果
勝于見乎不心重見成國也見
能國因見及國無見非圖奈今
人為見者多矣國者少矣得圖
而豁其襟懷娛心志國不謂不
勝于見乎是予之所立之意也

候曉解匏繫於京師法醫胡素
海卷之杜公橋遠之濱名橋了
龍大壩云流之穗清見美京艾
崇靈嶽笥山天關肯渭越徑極
心身心道過館驛五十有餘部
到東都國信所紀畧盡矣此
也縱探禹穴登龍門何憚乎維
然鄙癘足供為他人百呆平壯

六七拾九跋

言危論聽者遂飽謂又果勝於
圖乎謂國果勝於見乎心亦龍
圖難獲捷徑矣略贅數語伸
意鼓腹
皇和清平之辰而已矣

實政九葉次丁巳後九月

平安

秋里籬岩 湘夕



寬政七歲

浪花

榑原喜兵衛

寬政九^丁己載十一月

田中庄兵衛

出雲寺文次郎

小川多左衛門

京師

殿 為 八

今井喜兵衛

書林

武村甚兵衛

榑谷市兵衛

須原茂兵衛

東都

前川六左衛門

小林新兵衛





共六

共六

共六

Handwritten signature

嘉田
里村
光
山
所
持